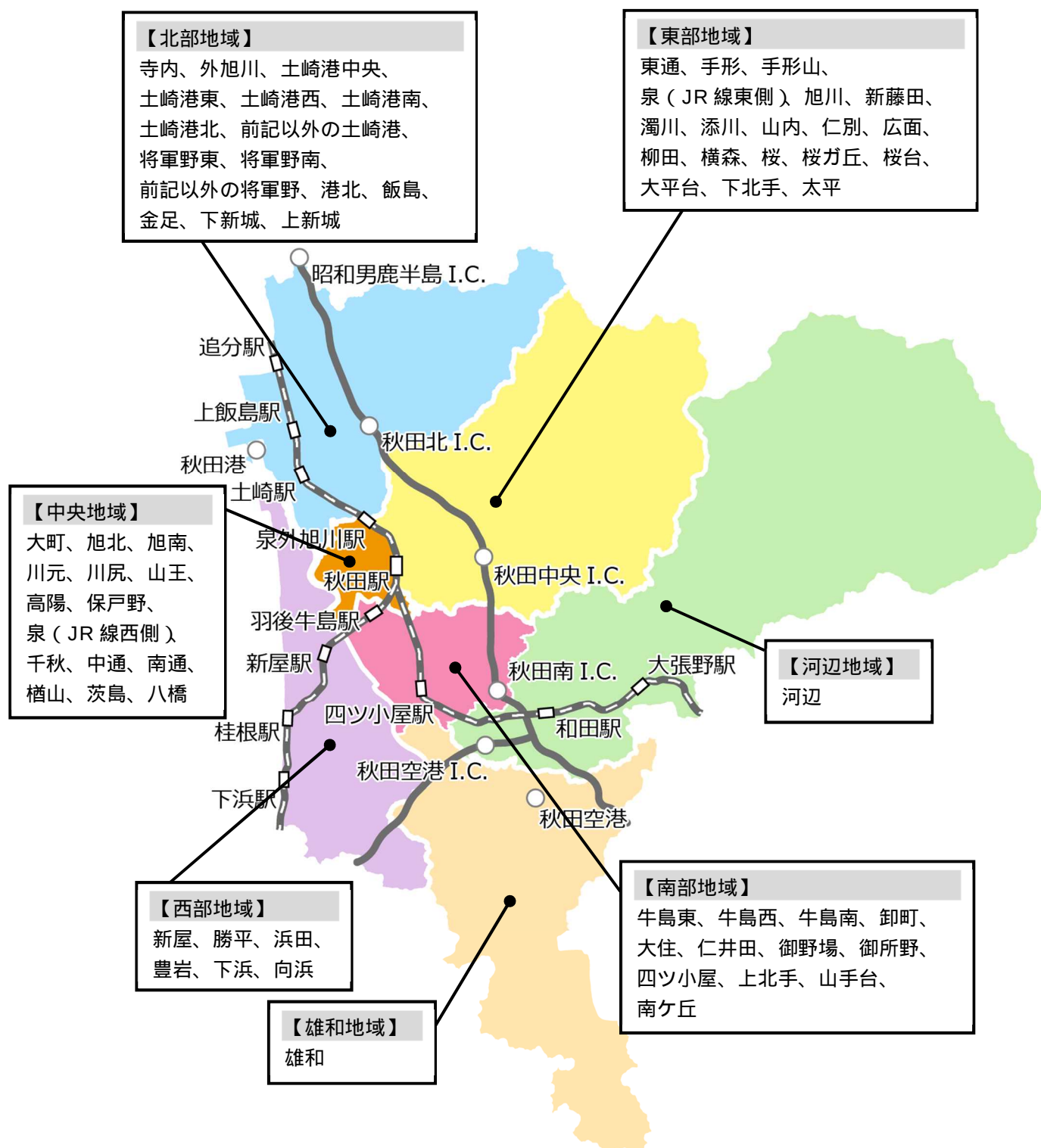


地域別構想 ～地域づくりの方向性（案）～

地域別構想は、市内 7 地域ごとに、地域の現況、アンケート調査等による住民の意向、課題等を踏まえ、将来の地域のまちづくりの方向性を示すものです。

なお、まちづくりの方向性は、全体構想で示されている、土地利用の方針、交通体系の整備方針、住環境・市街地整備の方針、水と緑の整備・保全の方針、景観形成の方針、供給・処理施設等の整備方針に基づくものです。



1. 中央地域

1 - 1. 地域の概要

(1) 概況

- 中央地域は、本市のみならず、県の産業活動の中心地であり、県全体の発展を牽引する役割を担い、商業・業務機能、行政機能、交通機能など、他地域の地域中心に保有しない高次都市機能を提供しています。
- 中心市街地は、主要交通結節点である秋田駅を中心に商業・業務施設が集積しており、公共交通、商業・業務の拠点となっています。また、千秋公園やエリアなかいちなど、観光・交流の拠点にもなっています。
- 山王・八橋地区は、市役所をはじめ、国や県の官公庁施設が集積しているほか、八橋運動公園が整備されるなど、うるおいのある都市空間が形成されています。
- 人口は、2015年（平成27年）で72,579人であり、2005年（平成17年）からの10年間で4,521人（5.9%）減少しています。高齢化率は2015年で25.9%となっており、7地域の中では南部地域に次いで2番目に高齢化率が低くなっています。
- 世帯数は、2015年で35,652世帯であり、2010年（平成22年）には一時減少したものの、2005年からの10年間で444世帯（1.3%）増加しています

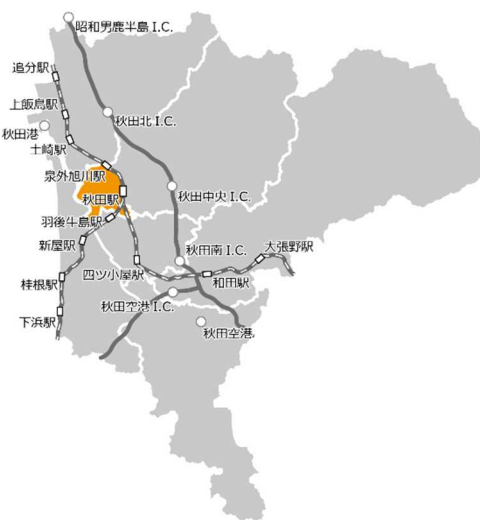


図1-1 位置図

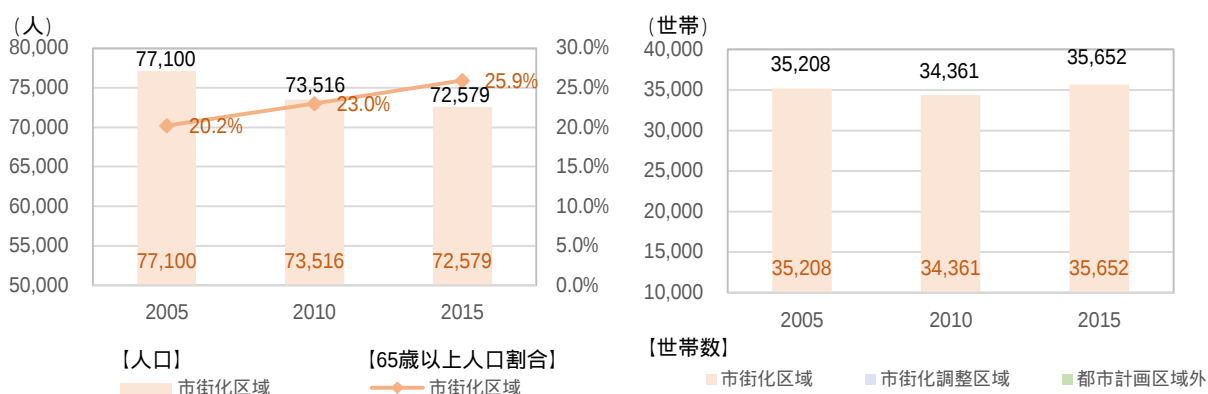


図1-2 2005～2015年における人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

注：国勢調査 100mメッシュは小数点第2位で整理されており、四捨五入により地域全体の合計値と合わない場合がある

(2) 人口動向

- 人口減少や高齢化が加速していくことが予想されています。

【人口（人／年）】2005～2015年：-452、2015～2030年：-550、2030～2040年：-731

【高齢化率（ポイント／年）】2005～2015年：+0.57、2015～2030年：+0.71、2030～2040年：+0.82

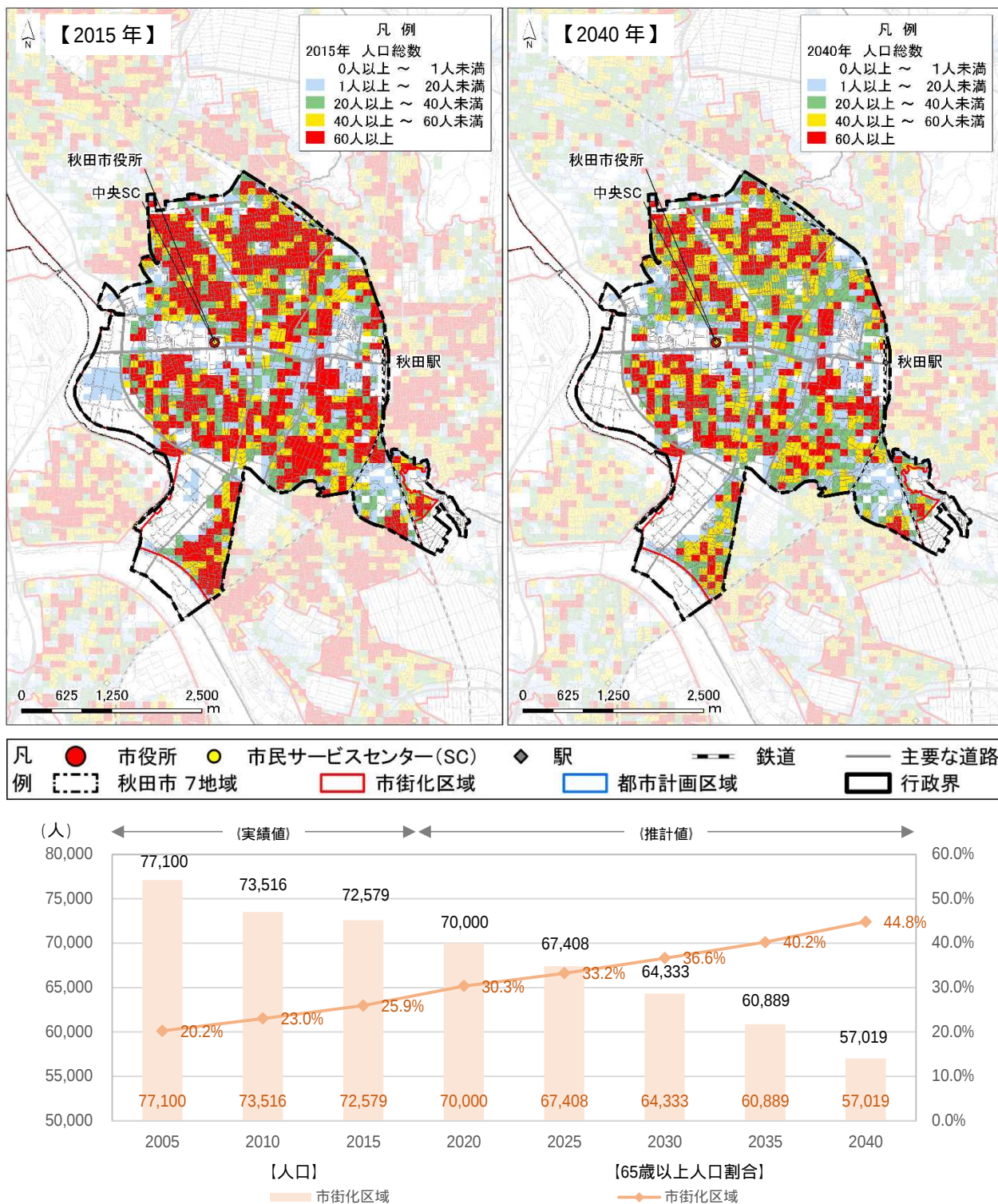


図1-3 人口動向

出典：国勢調査100mメッシュ（2000～2015年）、2015年国勢調査100mメッシュに基づき推計（2020年～）

(3) 地域の現状・課題

土地利用

主な課題	■ 県を中心とする地域として、適正な土地利用の誘導により拠点性の維持・向上を図る必要があります。 ■ 秋田駅に近接し、商業施設や公共施設等が利用しやすい利便性の高い住宅地として、既存ストックの活用や低未利用土地への対応に取り組み、人口密度を維持していく必要があります。
------	---

〔概況〕

- 市街化区域内の土地利用は、商業や住宅、道路等の都市的土地利用の割合が多く、特に、商業用地は市街化区域全体構成比の約 2 倍にあたる 12.3% を占めています。

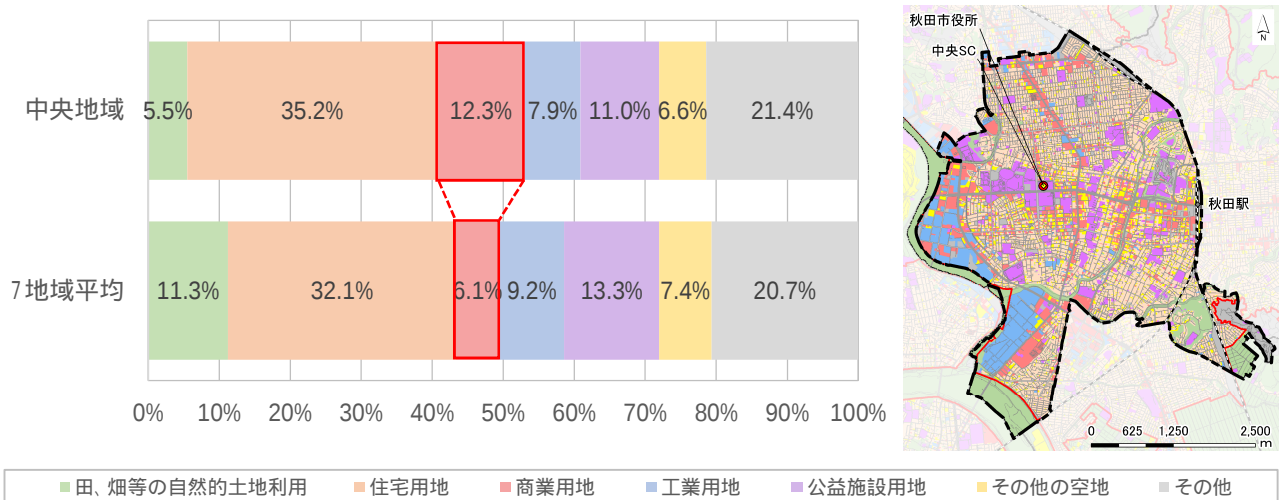


図 1 - 4 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布

出典：平成 28 年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

〔商業・業務地〕

- 中心市街地は、宿泊業や飲食サービス業、小売業等が集積する商業地を形成しています。また、川反通りを中心に、県内随一の繁華街を形成しています。しかし、商業施設の減少にともない、空き店舗や空き地、駐車場が増加しており、にぎわい形成に向けたハード・ソフト両面からの対応が求められています。
- 主要地方道秋田天王線（通称：新国道）をはじめとする幹線道路沿道に、比較的大規模な沿道型の商業施設が分布しており、今後とも、その機能を維持していくことが求められています。

〔住宅地〕

- 山王や川尻、泉、保戸野の各地区は、大規模な土地区画整理事業により良好な住宅地を形成しています。また、中心市街地にはマンションも立地し、地域全体で密度の高い住宅地が形成されています。
- 山王や秋田駅前地区で人口が増加している一方、泉や保戸野地区を中心に空き家が多く発生しており、空き家や空き室など、既存ストックを活用した街なか居住を促進していくことが求められています。

〔工業地〕

- 旧雄物川に沿って工業地が広がっていますが、国道 7 号や 13 号沿道では、沿道型の商業施設が立地しており、操業環境を保全しつつ、交通条件を生かした施設の立地を促進し、周辺環境と調和のとれた産業エリアの形成を図ることが求められています。

〔自然環境等〕

- 千秋公園の北側にあるまとまった緑地に風致地区を指定し、良好な自然環境を保全しています。また、千秋公園や八橋運動公園、寺町地区に、まとまった緑地空間が確保されています。
- 旭川や太平川、草生津川などの複数の河川が地域内を流れています。
- これらの自然環境は市街地内の貴重なうるおいのある都市空間として、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。

交通体系

主な課題

- 秋田駅は、本市の重要な交通結節点として、公共交通のさらなる利便性の向上を目指し、地域間の連携・交流を促進する必要があります。

〔道路〕

- 都心環状道路および市街地環状道路に位置づけた都市計画道路川尻総社線や御所野追分線等の路線は、都市計画道路川尻広面線の一部の整備が未着手となっています。
- 分散導入路に位置づけた都市計画道路秋田駅八橋線や新屋土崎線等の路線は、地域内の全区間が供用済（一部含む）もしくは事業中となっています。
- 国道 13 号や主要地方道秋田天王線等の幹線道路では自動車交通量が多く、渋滞も発生しています。
- これらの骨格道路は、未整備区間の整備等が求められています。

〔公共交通〕

- 秋田駅西口には、市内各地域へ向かう路線バスのバスターミナルが整備され、市民のみならず県内外からの来訪者にとって、重要な交通結節点となっています。また、中心市街地循環バスが運行されており、これらの公共交通サービスを生かした公共交通利用者の利便性の向上が求められています。
- 2021 年（令和 3 年）に、泉外旭川駅の開業が予定されています。

住環境・市街地整備等

主な課題	■ 既存の高次都市機能や商業・業務機能の更なる充実に向け、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。 ■ 県都秋田の玄関口として、秋田駅周辺の既存ストックを活用した、にぎわい形成や回遊性の向上、緑化等の景観形成を進めていく必要があります。
------	---

〔都市機能等〕

- 中心市街地は、商業や医療施設のほか、観光や文化施設など多様な機能が集積しています。また、あきた芸術劇場や秋田市文化創造館の整備が進められています。
- 中心市街地全体では、歩行者・自転車通行量が減少傾向にあります。
- 山王・八橋地区は、市役所や県庁、高等裁判所など、行政機能が集積しています。また、八橋運動公園や文化会館、県立図書館や体育館など、スポーツ・文化施設が集積しています。
- 地域全体に、身近に利用できる都市公園が多く分布しています。
- 中央地域の地価は、下落率が高いものの、近年は減少幅が縮小しており、秋田駅前や八橋地区では上昇に転じている地点があります。
- 中心市街地を中心に、県全体の発展を牽引する中心拠点として、既存都市機能の維持・増進を図ることが求められています。

〔景観〕

- 秋田駅周辺は、秋田駅および駅前広場、バスターミナルに木材や芝生を活用しており、秋田らしい景観形成が進められており、良好な景観形成の取組を中心市街地全体に波及させ、県都秋田のイメージアップを目指していくことが求められています。
- 山王大通りは、沿道緑化や無電柱化が進められ、シンボルロードとなっています。また、寺町や大町地区では、昔ながらの歴史的な街並みが残されています。これらの資源は、良好な街並み景観として保全していくことが求められています。

〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「日常の買い物の便利さ」が最も高く、次いで「上水道・下水道の整備状況」や「緑の豊かさ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合が、市全体よりも 7.1 ポイント高く、その理由として、「買い物や医療など生活に便利」や「自身の通勤や通学に便利」、「地域に愛着がある」が挙げられています。

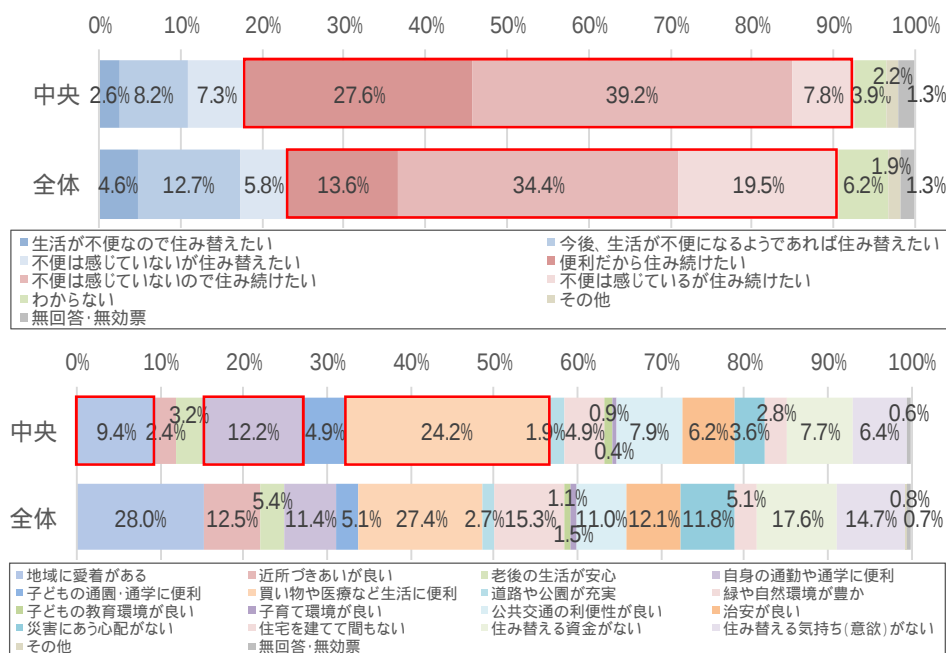


図 1 - 5 中央地域居住者の住み替え意向（上図）および中央地域に住み続けたい理由（下図）

出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

1 - 2 . 地域づくりの方向性（案）

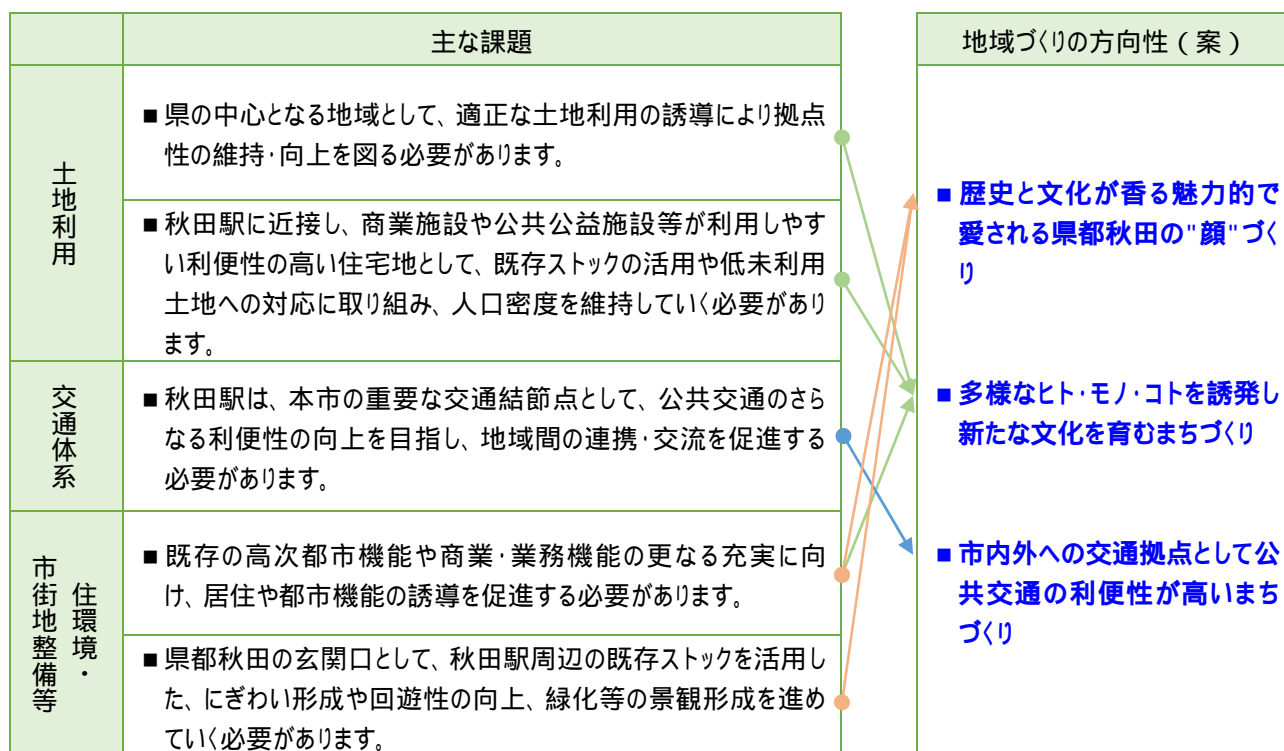
【地域づくりの方向性(案)】

- 歴史と文化が香る 魅力的で愛される県都秋田の"顔"づくり
- 多様なヒト・モノ・コトを誘発し 新たな文化を育むまちづくり
- 市内外への交通拠点として 公共交通の利便性が高いまちづくり

本地域は、本市のみならず県全体の産業活動の中心地であり、地域経済を牽引する役割を担う地域です。

今後も、高次都市機能や商業・業務機能の更なる充実化に加え、拠点性の維持・向上に取り組み、多様なヒト（人）・モノ（商品やサービス）・コト（事象）を誘発できる環境の形成を目指します。

また、各地域の地域中心と連携する重要な交通拠点である秋田駅およびその周辺は、県内外からの来訪者を迎える玄関口にもなっていることから、円滑な都市間・都市内移動の確保に向け、更なる利便性の向上に資する環境整備を推進するとともに、県都秋田の中心地として、魅力的で文化を感じることができ、愛される市街地環境の形成に取り組みます。



2．東部地域

2 - 1．地域の概要

(1) 概況

- 東部地域は、秋田駅東口周辺において土地区画整理事業が実施され、社会基盤施設の整った住宅地が広がっており、幹線道路沿道には沿道型商業地が形成されています。
- 市街地の東側には、農地や樹林地などの自然環境が広がっており、太平山リゾート公園や仁別国民の森など、レクリエーション施設も立地しています。
- また、秋田大学やノースアジア大学をはじめとする高等教育機関が立地しており、学園都市としての性格を有しています。



図 2 - 1 位置図

- 人口は、2015 年（平成 27 年）で 63,822 人であり、2005 年（平成 17 年）からの 10 年間で 1,554 人（2.4％）減少しています。高齢化率は 2015 年で 27.5％となっており、7 地域の中では南部・中央の各地域に次いで 3 番目に高齢化率が低くなっています。
- 世帯数は、2015 年で 29,400 世帯であり、2005 年からの 10 年間で 1,242 世帯（4.4％）増加しており、7 地域の中では南部地域に次いで 2 番目に世帯数が増加しています。

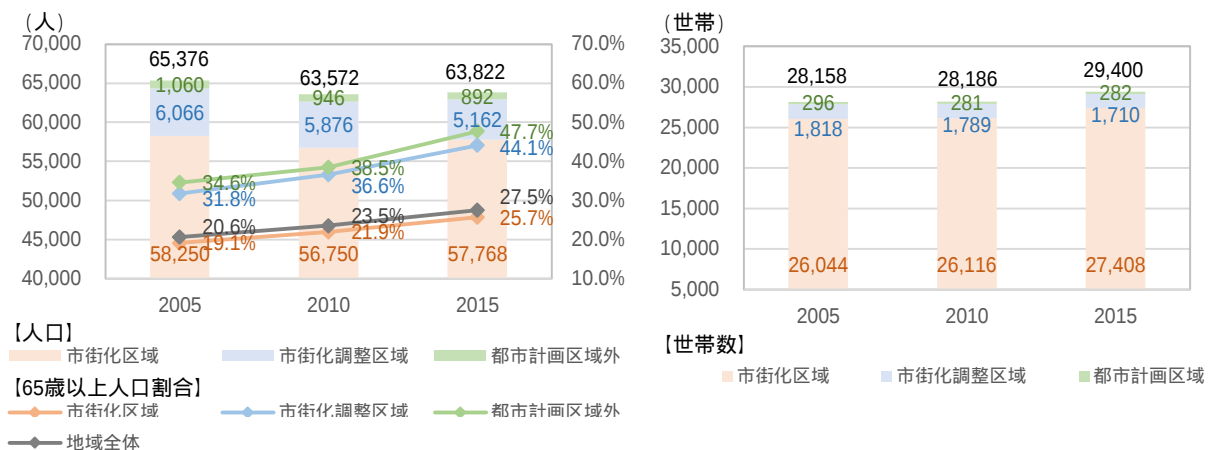


図 2 - 2 2005～2015 年における人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

注：国勢調査 100mメッシュは小数点第 2 位で整理されており、四捨五入により地域全体の合計値と合わない場合がある

(2) 人口動向

- 人口減少が加速していくことが予想されます。また、高齢化率も継続して増加していくことが予想されます。

〔人口（人／年）〕2005～2015年：-155、2015～2030年：-490、2030～2040年：-635

〔高齢化率（ポイント／年）〕2005～2015年：+0.69、2015～2030年：+0.56、2030～2040年：+0.47

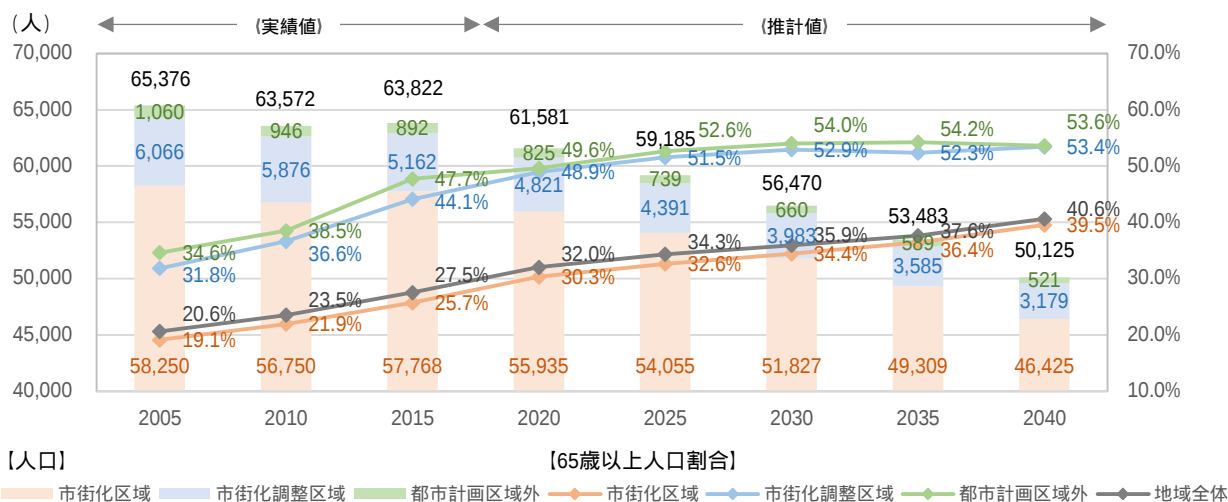
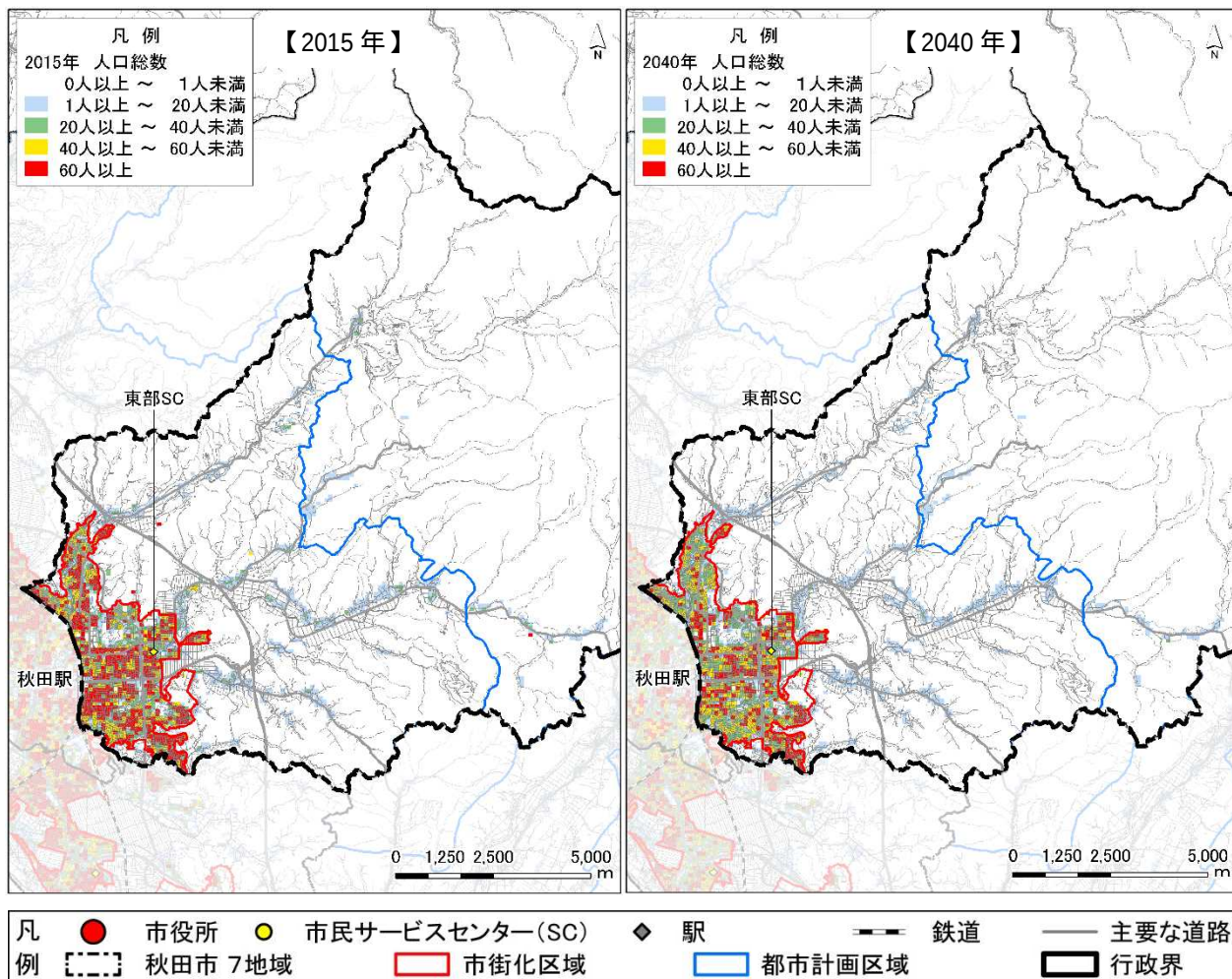


図2-3 人口動向

出典：国勢調査100mメッシュ（2000～2015年）、2015年国勢調査100mメッシュに基づき推計（2020年～）

(3) 地域の現状・課題

土地利用

主な課題	■ 秋田駅東地区では、引き続き土地区画整理事業を進めていながら、秋田駅に近接する位置特性を生かした生活サービス機能等の維持・増進により、拠点性の維持・向上を図る必要があります。 ■ 市街地郊外部や既存集落では、高齢化や低未利用土地への対応等に取り組み、住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していく必要があります。 ■ 地域にある太平川等の水辺空間、農地や樹林地等の緑地空間を貴重な地域資源として捉え、無秩序な市街化の抑制や市民・NPO 等の多様な主体との協働・参画による管理・保全を図る必要があります。
------	---

〔概況〕

- 市街化区域内の土地利用は、住宅用地の割合が多く、市街化区域全体の構成比の約 1.5 倍にあたる 48.4%を占めています。

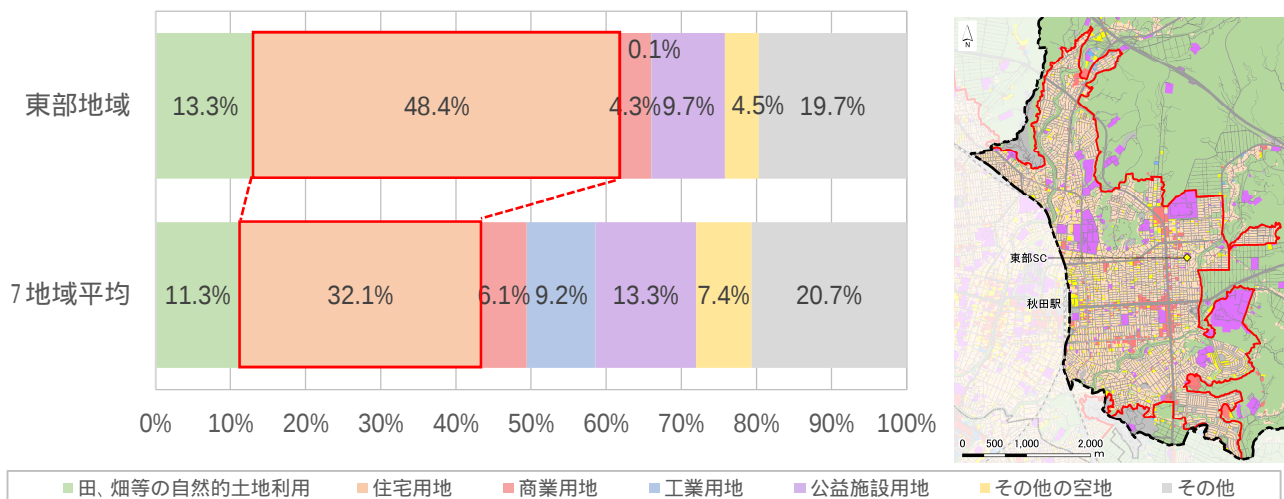


図 2 - 4 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布

出典：平成 28 年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

〔商業・業務地〕

- 主要地方道岩見船岡線、秋田昭和線、秋田北野田線等の幹線道路沿道に、比較的大規模な沿道型の商業施設が分布しており、今後とも、その機能を維持していくことが求められています。
- 秋田駅東地区は、秋田駅と一体を成す地区として、都市機能の更なる充実や拠点性の向上を進めていくことが求められています。

〔住宅地〕

- 秋田駅東地区では、土地区画整理事業が進行しており、良好な住宅地が形成されています。また、土地区画整理事業が実施されていない地区でも、既存住宅地や民間開発等によって整備された住宅地が広がっています。主要地方道秋田昭和線よりも北側もしくは東側の郊外部では、手形山や桜台、大平台など、大規模な開発による住宅団地が分布しており、市街化区域全体で、比較的密度の高い住宅地が形成されています。
- 市街化調整区域では、田園地帯や山間部に既存集落が分布しています。
- 秋田駅東地区の土地区画整理事業地のほか、桜台や桜が丘、大平台の郊外住宅団地で人口が増加しています。一方で、旭川や手形、広面、東通地区を中心に高齢化率が高く、空き家が多く発生しています。
- 地域中心である秋田駅東地区は、利便性の高い良好な住宅地として、引き続き秋田駅東第三土地区画整理事業を進めていくことが求められています。
- 市街化調整区域の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

〔自然環境等〕

- 市街化調整区域では、太平山に代表される東部山岳地帯を有し、山間の平野部に優良農地が分布するなど、市街地と自然環境が近接しています。
- 手形山公園を中心としたまとまった緑地に風致地区を指定し、良好な自然環境を保全しています。
- 地域の北側に旭川、中央から南側にかけて太平川が流れ、市街地内の貴重な水辺空間としての役割を果たしています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。

交通体系

主な課題

- 秋田駅は、本市の重要な交通結節点として、公共交通のさらなる利便性の向上を目指し、地域間の連携・交流を促進する必要があります。

〔道路〕

- 都心環状道路に位置づけた都市計画道路川尻広面線や千秋広面線等の路線は、地域内の全区間が供用済（一部含む）となっています。
- 市街地環状道路に位置づけた都市計画道路横山金足線は、地域内の全区間が整備済です。なお、本路線（主要地方道秋田昭和線）は自動車交通量が多く、渋滞も発生しています。
- 外周部環状道路に位置づけた都市計画道路秋田外環状線は、地域内の全区間が供用済です。

- 分散導入路および交通結節点アクセス路に位置づけた都市計画道路秋田駅東中央線は、地域内の全区間が供用済です。
- これらの骨格道路は、機能の保全に向けた計画的な維持・改修が求められています。

〔公共交通〕

- 秋田駅東口には、バスやタクシー、自家用車などが利用できる駅前広場が整備されています。
- 地域内には、鉄道や路線バスのほか、マイタウン・バス（コミュニティバス）が運行されており、秋田駅東口の交通結節点機能を生かした、鉄道、バス、自転車との連携強化による公共交通利用者の利便性の向上が求められています。

住環境・市街地整備等

主な課題	■ 秋田駅東地区は、秋田駅に近接した利便性の高い市街地として、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。 ■ 地域内に立地する大学との連携強化等を進め、若い力を活用した地域活力の向上を図る必要があります。 ■ 住宅地の整然とした街並みや市街地に近接する自然環境を保全し、うるおいを感じることができる環境の維持・向上を図る必要があります。
------	--

〔都市機能等〕

- 県内唯一の特定機能病院（高度の医療の提供、高度の医療技術の開発および度の医療に関する研修を実施する能力等を備えた病院）である秋田大学医学部付属病院が立地しています。また、中央地域に次いで医療施設数が多く、市街化区域全体に分布しています。
- 行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する施設として、秋田駅東口にアルヴェが、広面地区に東部市民サービスセンター（いーばる）がそれぞれ立地しています。
- 市街化区域内は、身近に利用できる都市公園が多く分布しています。
- 市街化区域内の地価は、下落率が高いものの、近年は減少幅が縮小しており、秋田駅東地区の土地区画整理事業地では上昇に転じている地点があります。
- 地域中心である秋田駅東地区は、既存の公共公益施設や生活サービス施設、文化・交流施設を生かし、拠点性を維持・増進していくことが求められています。
- 秋田大学やノースアジア大学など、多くの学生が集まる大学が立地しており、大学との連携強化や地域住民との交流促進等が求められています。
- 都市計画区域外に、太平山リゾート公園や仁別国民の森など、周辺の自然環境と一体となったレクリエーション施設が立地しており、市内外からのレクリエーションの拠点として、交流人口の拡大に向けた機能の維持・拡充および積極的な活用が求められています。

〔景観〕

- 秋田駅東口は、土地区画整備事業により整然とした街並みが広がっており、統一感のある街並み景観の形成に向けた取組が求められています。
- 市街化調整区域は、市街地に近接して田園や森林景観が広がり、本市のシンボルである太平山など、四季折々の美しい山容を市内各所から眺めることができることから、これらの緑地等の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「上水道・下水道の整備状況」や「生活道路の整備状況」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合が、市全体よりも 2.5 ポイント高く、その理由として、「買い物や医療など生活に便利」や「地域に愛着がある」、「住み替える資金がない」が挙げられています。

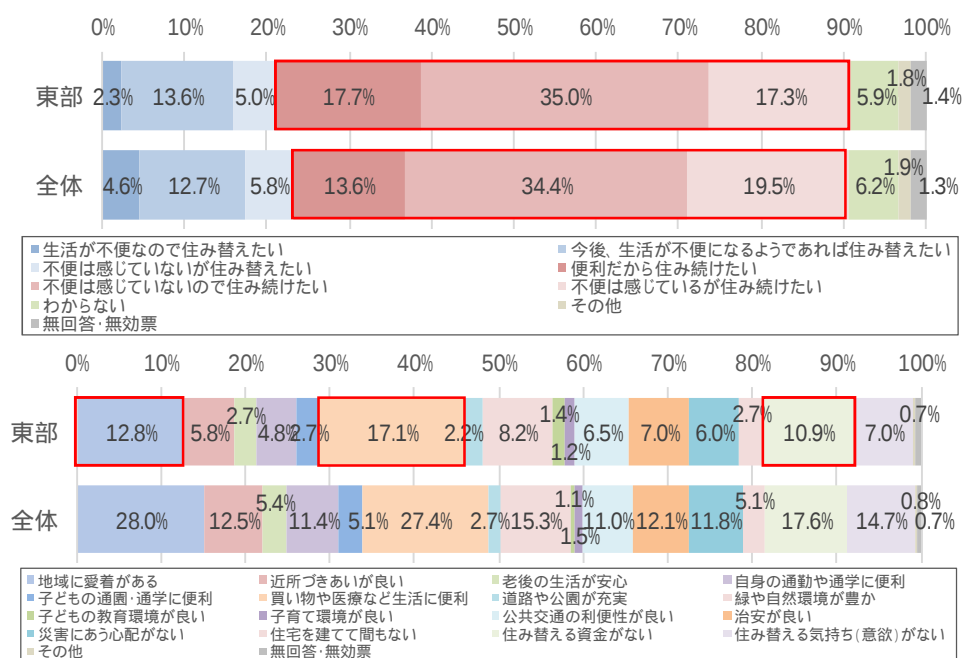


図 2-5 東部地域居住者の住み替え意向（上図）および東部地域に住み続けたい理由（下図）

出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

2 - 2 . 地域づくりの方向性（案）

【地域づくりの方向性(案)】

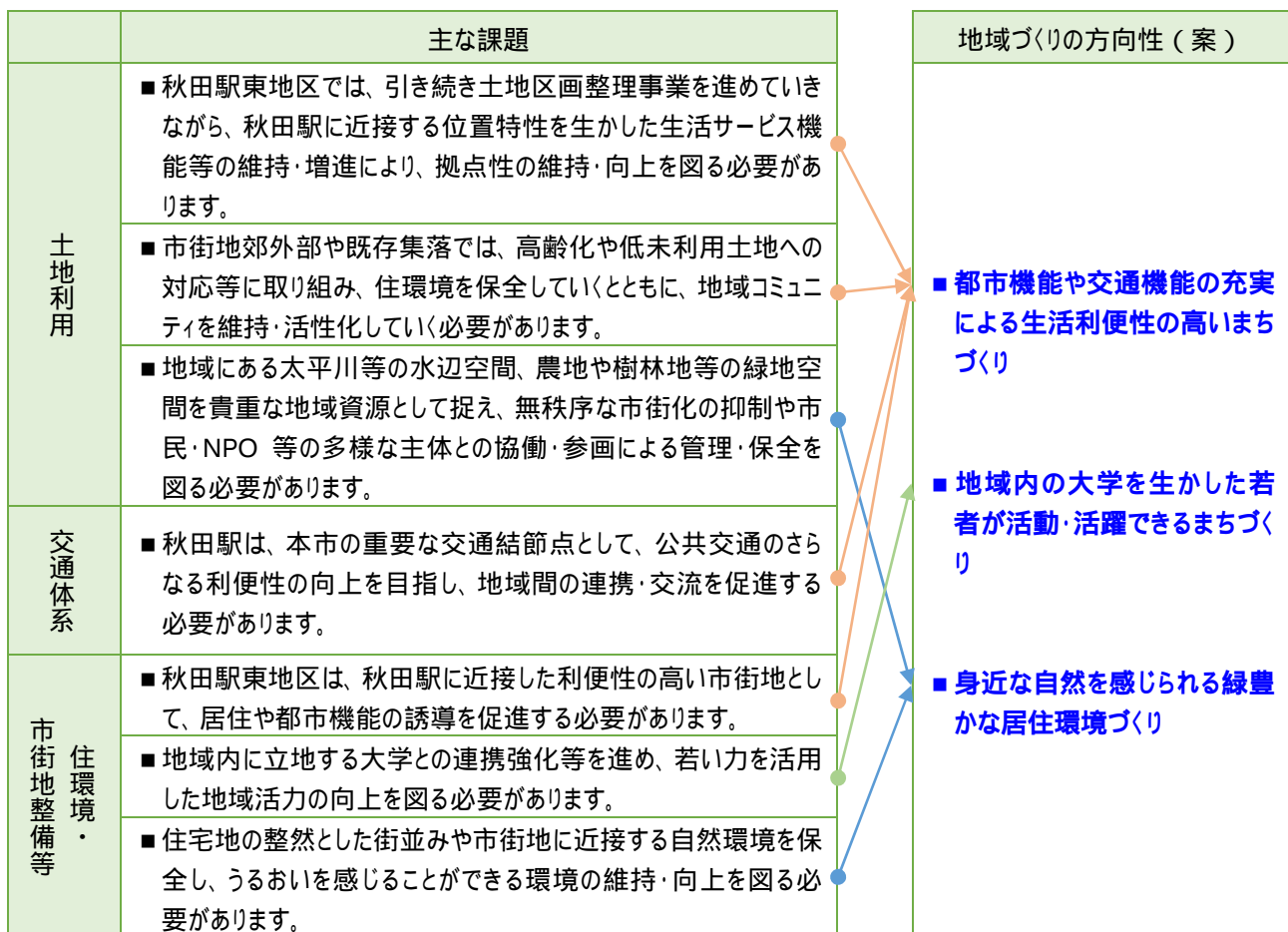
- 都市機能や交通機能の充実による 生活利便性の高いまちづくり
- 地域内の大学を生かした 若者が活動・活躍できるまちづくり
- 身近な自然を感じられる 緑豊かな居住環境づくり

本地域は、豊かな自然環境を有しているほか、秋田駅東地区を中心に、土地区画整理事業等による社会基盤施設が整った良好な住宅地や、幹線道路沿道の商業地など、利便性の高い市街地が形成されてきています。

今後も、引き続き、秋田駅東地区を中心に都市機能や居住を誘導するとともに、公共交通機能や商業機能等の更なる充実を図り、生活利便性の高いまちづくりを目指します。

また、地域内に大学や多くの学生が集まっている特徴を活用し、大学との連携強化や地域住民との交流促進等を進めながら、若者が活動・活躍できるまちづくりを目指します。

市街地を取り巻く自然環境については、市街地の外延的な拡大の抑制や市民や行政など多様な主体の連携によって適切な保全・管理を進め、市街地についても、自然環境と調和した、緑豊かな居住環境づくりを目指します。



3. 西部地域

3-1. 地域の概要

(1) 概況

- 西部地域は、雄物川の南側と北側で地域の性格が大きく異なっています。
- 南側は、新屋表町通りや新屋駅を中心とした市街地とともに、国道7号沿道の下浜地区等に住宅を中心とした市街地が形成されています。また、西部工業団地や下浜工業団地、豊岩工業団地等の工業団地が立地しており、主要な就業地となっています。市街地の外側には丘陵地が広がり、大森山公園や海水浴場などのレクリエーション施設が立地しています。
- 北側は、大規模な工業団地や研究所、スポーツ施設が立地し、その南東部には住宅地が形成されており、中央地域の都心・中心市街地とのつながりが強い地域です。
- また、海岸沿いに松林などの自然環境が残されています。
- 人口は、2015年（平成27年）で35,237人であり、2005年（平成17年）からの10年間で1,818人（4.9%）減少しています。高齢化率は2015年で29.4%となっています。
- 世帯数は、2015年で13,916世帯であり、2005年からの10年間で657世帯（5.0%）増加しています。

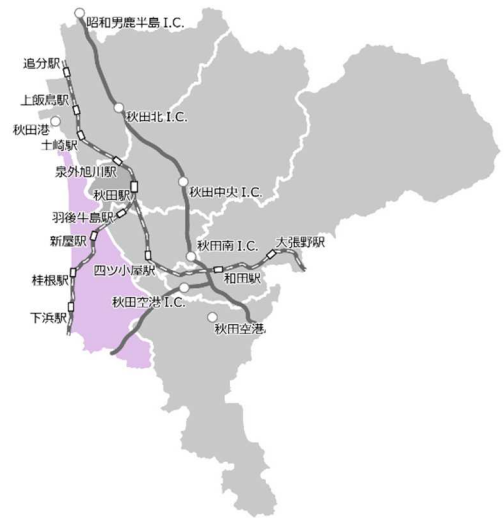


図3-1 位置図

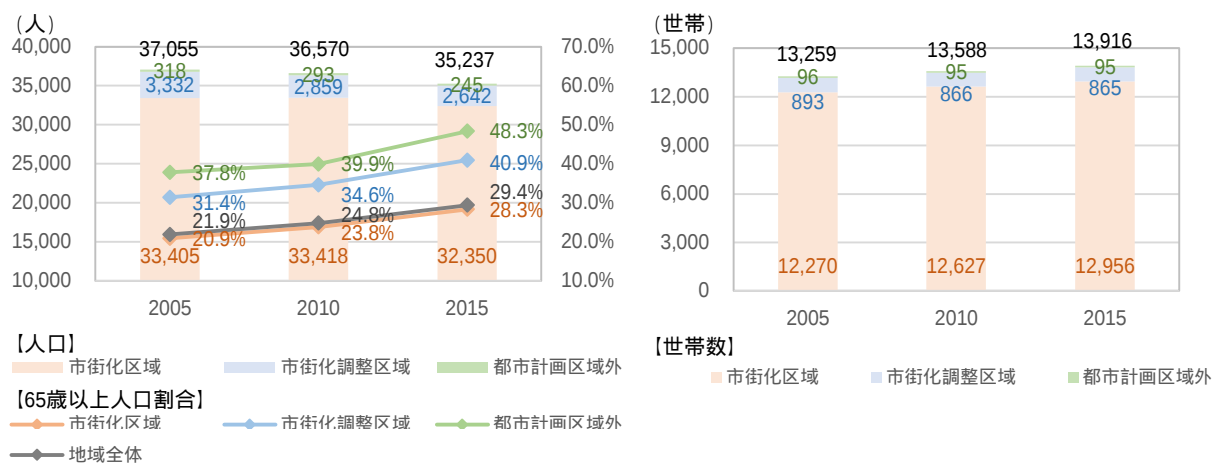


図3-2 2005～2015年における人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

注：国勢調査 100mメッシュは小数点第2位で整理されており、四捨五入により地域全体の合計値と合わない場合がある

(2) 人口動向

- 人口減少が加速していくことが予想されます。また、高齢化率も継続して増加していくことが予想されます。

【人口（人／年）】2005～2015年：-182、2015～2030年：-286、2030～2040年：-390

【高齢化率（ポイント／年）】2005～2015年：+0.75、2015～2030年：+0.62、2030～2040年：+0.61

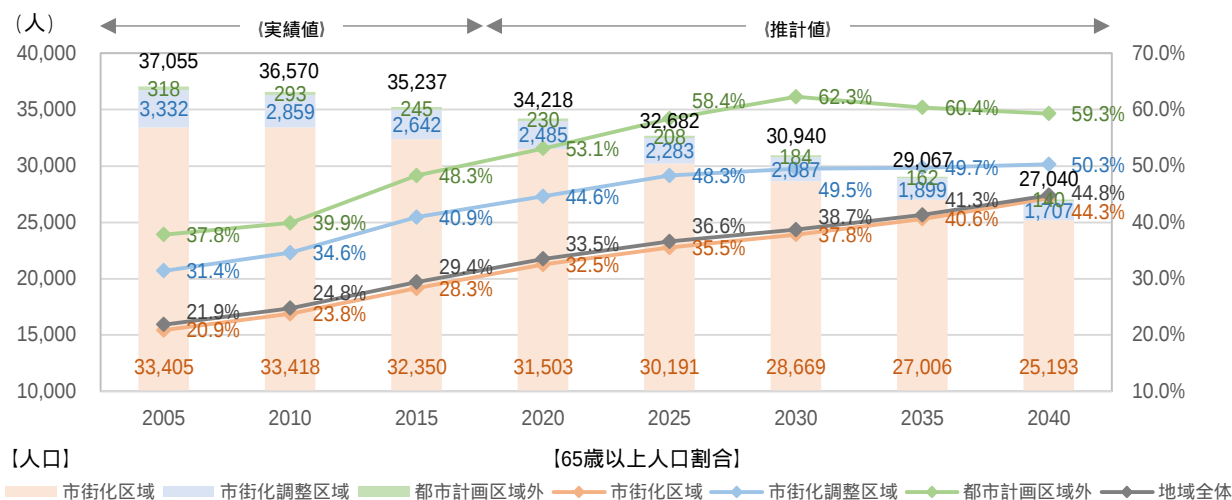
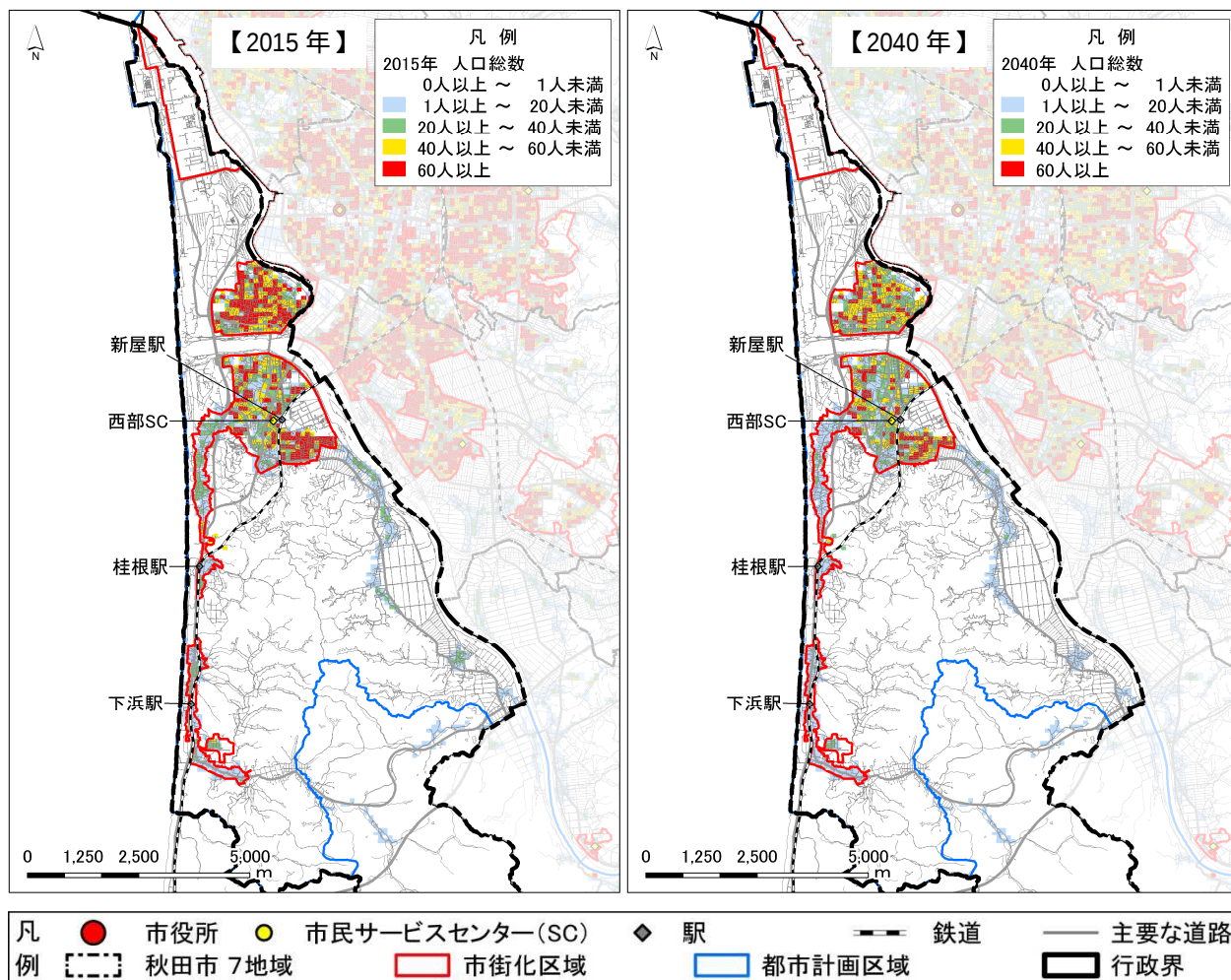


図3-3 人口動向

出典：国勢調査100mメッシュ(2000～2015年)、2015年国勢調査100mメッシュに基づき推計(2020年～)

(3) 地域の現状・課題

土地利用

主な課題

- 新屋地区は、住宅地と近接・混在した商業地として、日常の暮らしの中で必要な機能を維持・増進し、多様な土地利用が調和した拠点性の維持・向上を図る必要があります。
- 低未利用土地等の既存ストックの保全・活用などに取り組み、住環境を保全していく必要があります。
- 西部工業団地等の工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業環境の維持・形成を図るとともに、未分譲地の有効活用および地域産業の活性化を進めていく必要があります。
- 地域にある海岸や雄物川等の水辺空間、農地や樹林地等の緑地空間を貴重な地域資源として捉え、無秩序な市街化の抑制や市民・NPO 等の多様な主体との協働・参画による管理・保全を図る必要があります。

〔概況〕

- 市街化区域内の土地利用は、工業用地の割合が多く、市街化区域全体の構成比の約 2 倍にあたる 21.7% を占めています。一方、商業用地の割合が少なく、市街化区域全体の構成比の約 1/2 にあたる 2.7% となっています。

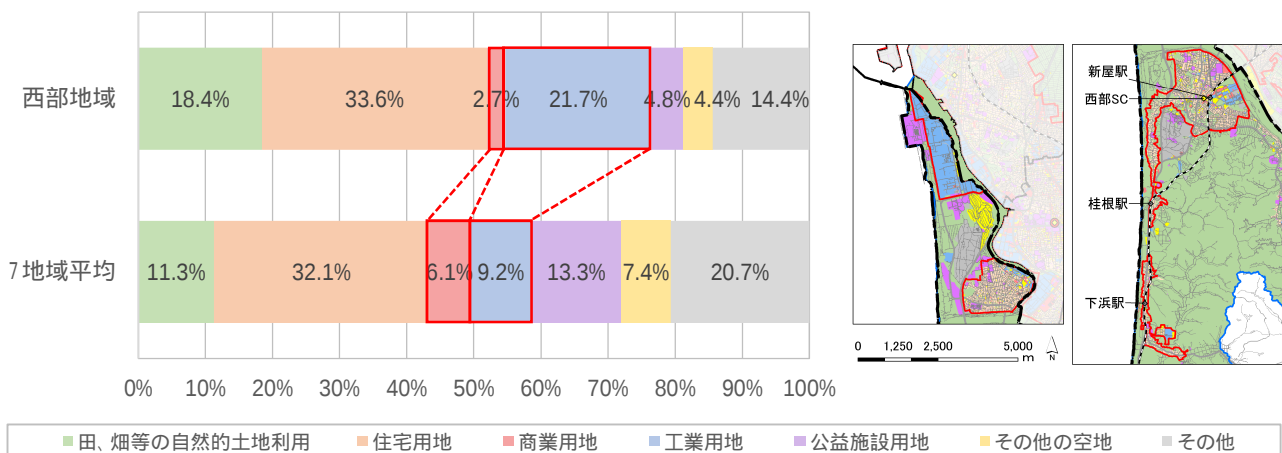


図 3 - 4 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布

出典：平成 28 年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

〔商業・業務地〕

- 新屋駅周辺や新屋表町に商業地域を指定し、駅前や新屋表町通りに商業施設が分布しているものの集積は図られていません。そのため、商業施設の進出を促す環境整備や都市機能を補完する都心部へのアクセス性の向上が求められています。

〔住宅地〕

- 旧街道や主要地方道秋田天王線沿道を中心とし、新屋、浜田、桂根、下浜の各地区の既存住宅地が分布しています。新屋西地区土地区画整理事業や新屋南団地等の民間宅地開発による住宅地のほか、下浜地区では、職住近接型の住宅地が工業団地に隣接して整備されています。勝平地区は、風致地区と調和した良好な居住環境を有し、他地区と比較して密度が高い住宅地が形成されています。
- 市街化調整区域では、主要地方道寺内新屋雄和線や県道川添下浜停車場線沿道を中心に既存集落が分布しています。
- 新屋表町通りや新屋駅の周辺、勝平、浜田、桂根、下浜の各地区で高齢化率が高く、特に新屋駅前や勝平地区を中心に、空き家が多く発生しています。
- 地域中心である新屋地区では、既存の住宅ストックの保全・活用を図りながら、人口密度を維持していくことが求められます。また、市街化区域内のその他の住宅地では、低未利用土地に対応しながら、住環境を保全していくことが求められています。
- 市街化調整区域の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

〔工業地〕

- 新屋地区に西部工業団地、下浜地区に下浜工業団地、豊岩地区に豊岩工業団地がそれぞれ整備され、工業施設が集積しています。
- 秋田港に隣接した向浜地区に、大規模工場や秋田県の公設研究機関・産業支援機関が立地しています。
- これらの工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業環境の維持・形成を図るとともに、未分譲地の有効活用および地域産業の活性化を進めていくことが求められています。

〔自然環境等〕

- 市街化調整区域では、海岸部に保安林に指定された松林、丘陵部に樹林地、平野部に優良農地が分布しており、市街地と自然環境が近接しています。また、丘陵地には大小様々な堤・池沼があり、里地里山が残されているほか、地域内に雄物川が流れています。
- 勝平山や大森山公園を中心としたまとまった緑地に風致地区を指定し、良好な自然環境を保全しています。
- 市街化区域では、大川端带状近隣公園や新屋大川散歩道など、緑を感じられる回遊路が整備されています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。

交通体系

主な課題	■ 新屋地区と他地域との連携・交流を支える、道路網や公共交通の機能維持・増進を図る必要があります。
------	---

〔道路〕

- 外周部環状道路に位置づけた都市計画道路下浜八橋線や新屋豊岩線等の路線は、地域内の全区間が供用済（一部含む）です。
- 放射道路および分散導入路に位置づけた都市計画道路下浜八橋線は、地域内の全区間が供用済（一部含む）です。
- これらの骨格道路は、さらなるアクセス性の向上に向けた維持・改修が求められています。

〔公共交通〕

- JR 羽越本線の新屋駅、桂根駅、下浜駅が立地しています。
- 地域内には、鉄道や路線バスのほか、マイタウン・バス（コミュニティバス）が運行されています。
- 勝平地区は、新屋地域と都心・中心市街地をつなぐ主要なバス路線上に位置し、都心・中心市街地とのつながりが強くなっています。
- 交通結節点として新屋駅周辺の機能維持・強化を図るとともに、都心・中心市街地へのアクセス性向上に向け取り組むなど、地域内・地域間の円滑な移動が行える環境づくりが求められています。

住環境・市街地整備等

主な課題	■ 新屋地区は、低層の商業地や住宅地が混在した特性に配慮しつつ、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。 ■ 市街地に近接した自然環境を保全しつつ、大森山公園や海水浴場等の既存施設とともに、レクリエーションの場として積極的な活用を図る必要があります。
------	--

〔都市機能等〕

- 医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービスを提供する施設の住民 1 人あたり施設数が、旧秋田市の 5 地域の中で最も少なく、そのほとんどが新屋駅周辺や勝平地区に立地しています。
- 新屋駅に近接し、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する西部市民サービスセンター（ウェスター）が立地しています。
- 新屋地区の歴史とものづくりの精神を伝承し、秋田公立美術大学の学生や地域住民等が交流する拠点施設として、秋田市新屋ガラス工房が立地しています。
- 多くの学生が集まる、秋田公立美術大学が立地しており、新屋表町通り等の空き家をギャラリーやカフェなど様々な用途に活用するプロジェクトや大森山アートプロジェクトなど、大学のリソースと地域が連携した取組が行われています。今後とも、大学との連携強化や地域住民との交流促進等を進めていくことが求められています。

- 地域中心である新屋地区では、既存の公共公益施設や生活サービス施設、文化・交流施設、教育施設を生かし、拠点性を維持・増進していくことが求められています。
- 大森山公園や浜田森林総合公園等の大規模公園、海水浴場など、周辺の自然環境と一体となったレクリエーション施設が立地しています。また、向浜地区には県立武道館やこまちスタジアムなど、スポーツ施設が集積しており、これらの施設をレクリエーションの場として積極的に活用していくことが求められています。

〔景観〕

- 新屋地区の新屋表町通り周辺は、町家や蔵、寺社等の歴史的建造物が点在しており、秋田公立美術大学と連携し、新屋表町通り景観まちづくりガイドラインを作成するなど、地域資源を生かした景観形成に取り組んでおり、今後もその活動を継続していくことが求められています。
- 大川端带状近隣公園の桜並木や新屋大川散歩道の街路樹は、四季を感じられる良好な景観を形成しています。また、市街化調整区域では、海岸や河川、農地、丘陵地などの自然景観が広がっており、これらの緑地等の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「上水道・下水道の整備状況」や「川や水路のきれいさ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合が、市全体よりも 2.5 ポイント低い状況です。現在の地域に住み続けたい理由は、「地域に愛着がある」や「住み替える資金がない」、「住み替える気持ち（意欲）がない」が挙げられています。

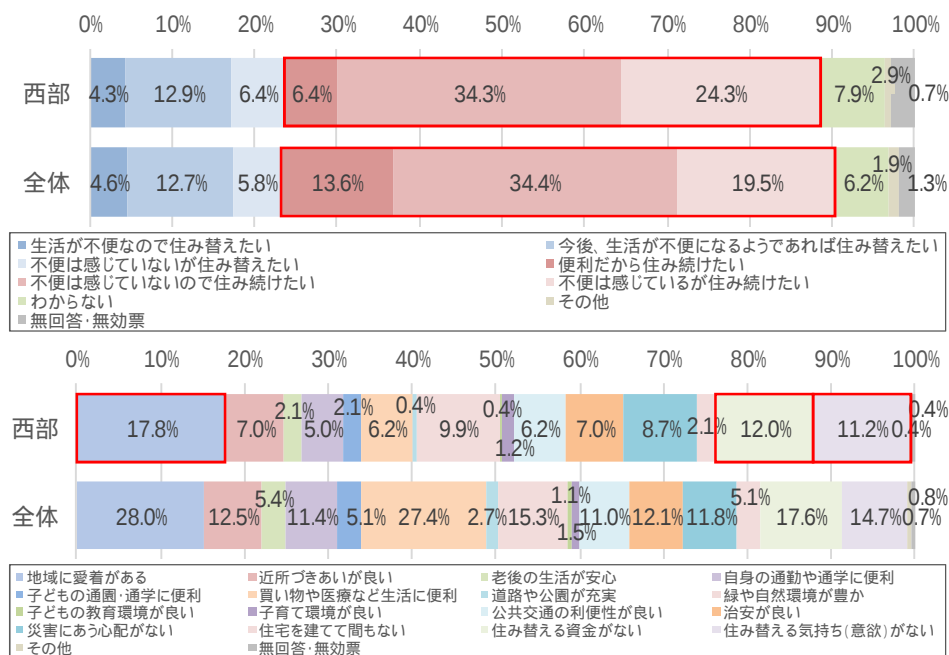


図 3 - 5 西部地域居住者の住み替え意向（上図）および西部地域に住み続けたい理由（下図）

出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

3 - 2 . 地域づくりの方向性（案）

【地域づくりの方向性(案)】

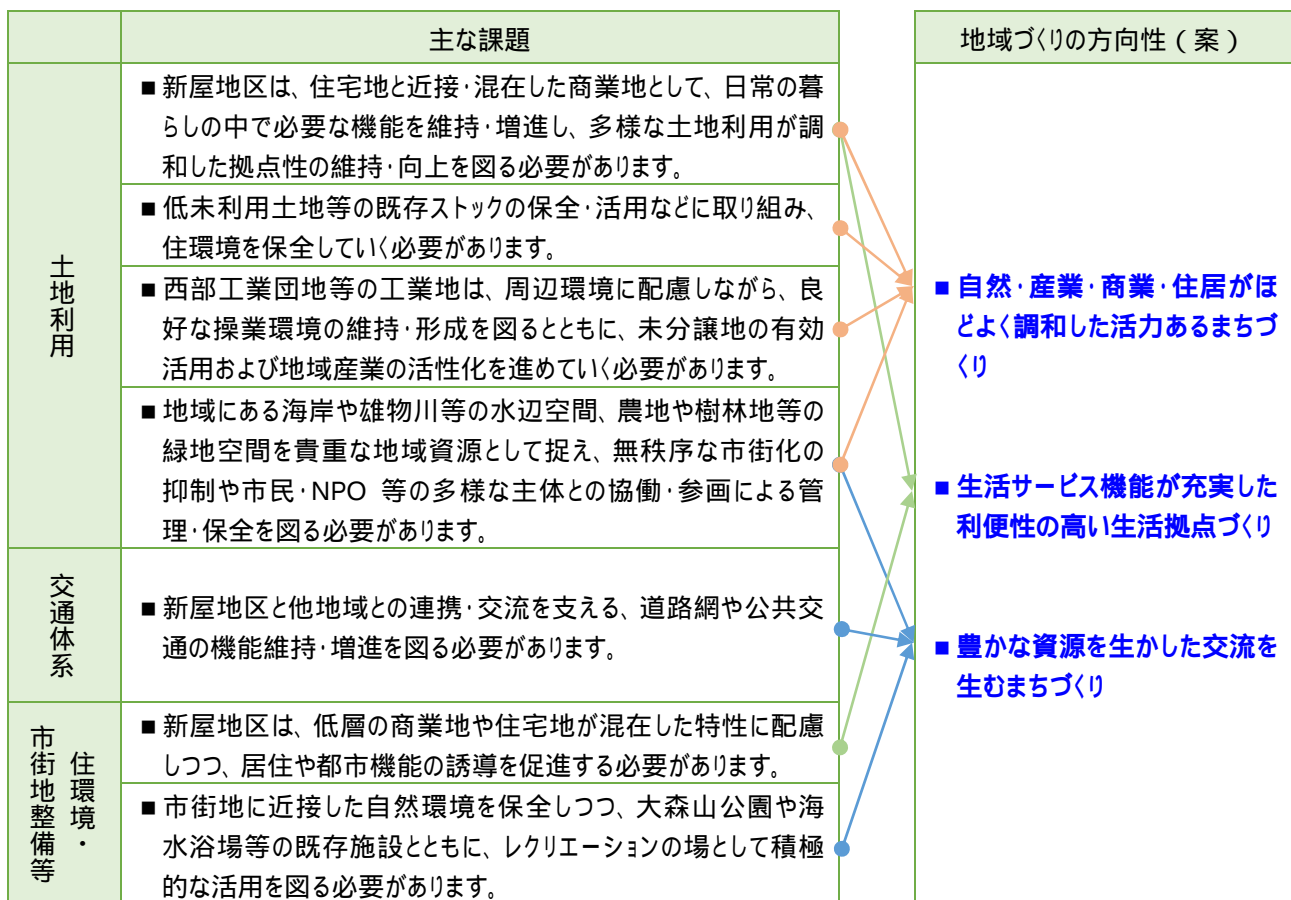
- 自然・産業・商業・住居がほどよく調和した 活力あるまちづくり
- 生活サービス機能が充実した 利便性の高い生活拠点づくり
- 豊かな資源を生かした 交流を生むまちづくり

本地域は、住宅地をはじめ大規模な工業団地や公共公益施設などの多様な施設が立地する市街地が形成されており、市街地周辺には良好な自然環境が保全されています。

今後も、引き続き、周辺環境に配慮しつつ、自然・産業・商業・住居がほどよく調和した活力ある市街地の形成を目指します。

本地域の地域中心となる雄物川南側の新屋地区については、低層な商業地と住宅地が混在している地区の特性を踏まえ、既存の公共公益施設の機能の維持・充実や、居住および日常の暮らしの中で必要な生活サービス施設を誘導し、地域住民の生活利便性の向上に向けた環境づくりを進めます。

また、交流人口の拡大による地域の活力向上とにぎわいの創出に向けて、本地域が有する海岸や河川、丘陵地などの豊かな自然環境の保全を促進し、大森山公園や新屋ガラス工房などの観光拠点の積極的な利活用を図ります。



4．南部地域

4 - 1．地域の概要

(1) 概況

- 南部地域は、豊かな水田と丘陵地で構成された田園空間の中に、人口の増加等に伴い住宅地が徐々に拡大しながら形成されてきた市街地が広がっています。
- また、四ツ小屋駅の東側には、本地域の地域中心となる御所野地区（御所野ニュータウン）が整備されています。
- 御所野地区は、職住近接型のニュータウンとして開発された大規模団地で、住宅地のほか商業・流通・工業機能も有しており、河辺・雄和地域の都市機能を補う地域連携拠点としての役割も担っています。
- 郊外部には、秋田赤十字病院が立地しており、市の医療を支えています。
- 人口は、2015 年（平成 27 年）で 49,807 人であり、2005 年（平成 17 年）からの 10 年間で 217 人（0.4％）のみの減少となっています。高齢化率は 2015 年で 25.5％となっており、7 地域の中で最も高齢化率が低くなっています。
- 世帯数は、2015 年で 19,552 世帯であり、2005 年からの 10 年間で 1,800 世帯（10.1％）増加しており、7 地域の中で最も世帯数が増加しています。

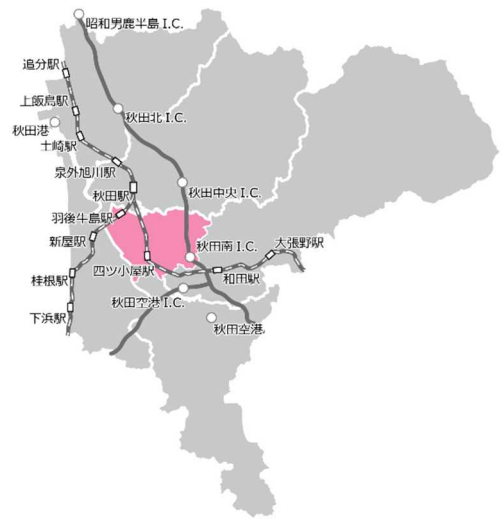


図 4 - 1 位置図

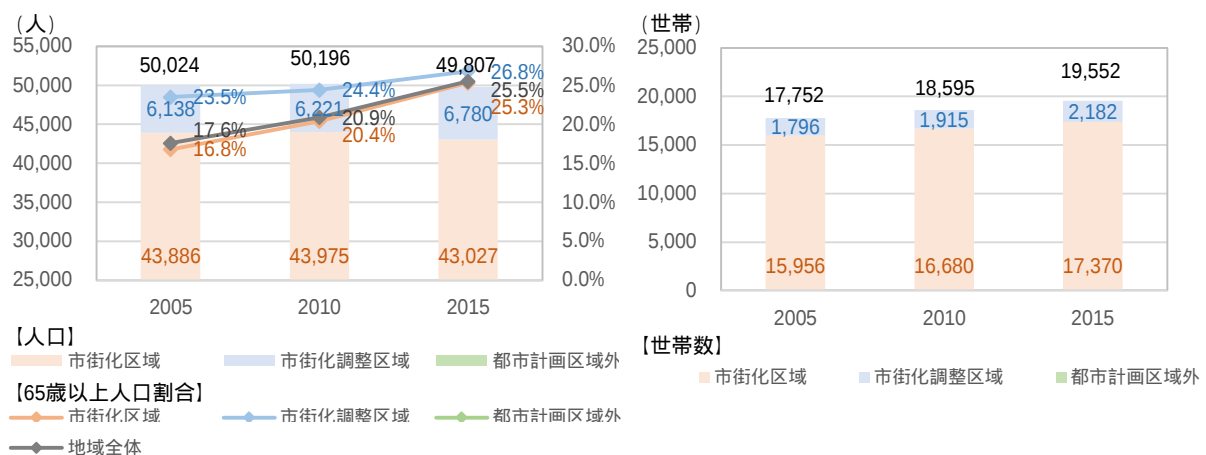


図 4 - 2 2005～2015 年における人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

注：国勢調査 100mメッシュは小数点第 2 位で整理されており、四捨五入により地域全体の合計値と合わない場合がある

(2) 人口動向

- 人口減少が加速していくことが予想されます。また、高齢化率も継続して増加していくことが予想されます。

【人口（人／年）】2005～2015年：-22、2015～2030年：-306、2030～2040年：-504

【高齢化率（ポイント／年）】2005～2015年：+0.79、2015～2030年：+0.79、2030～2040年：+0.66

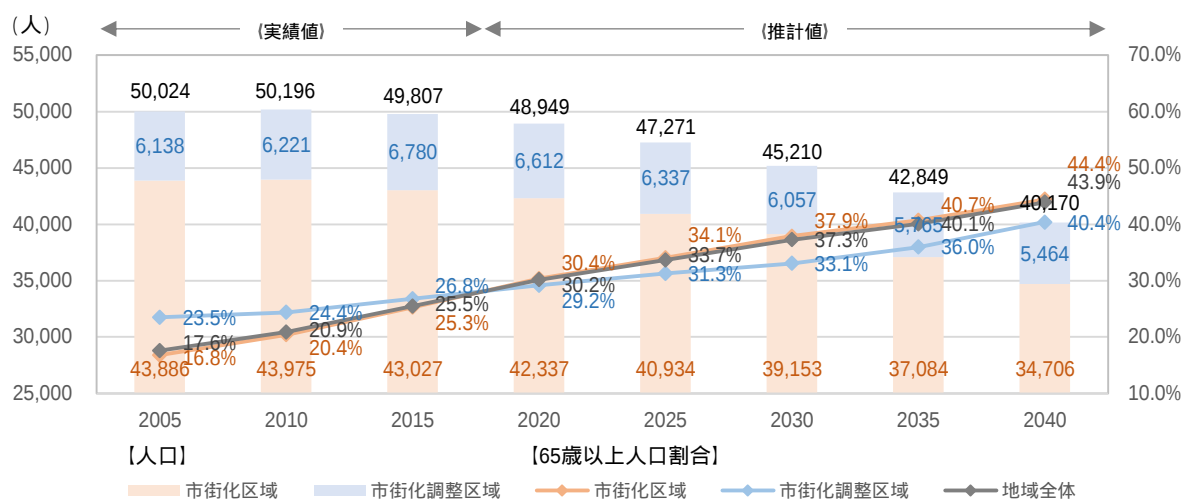
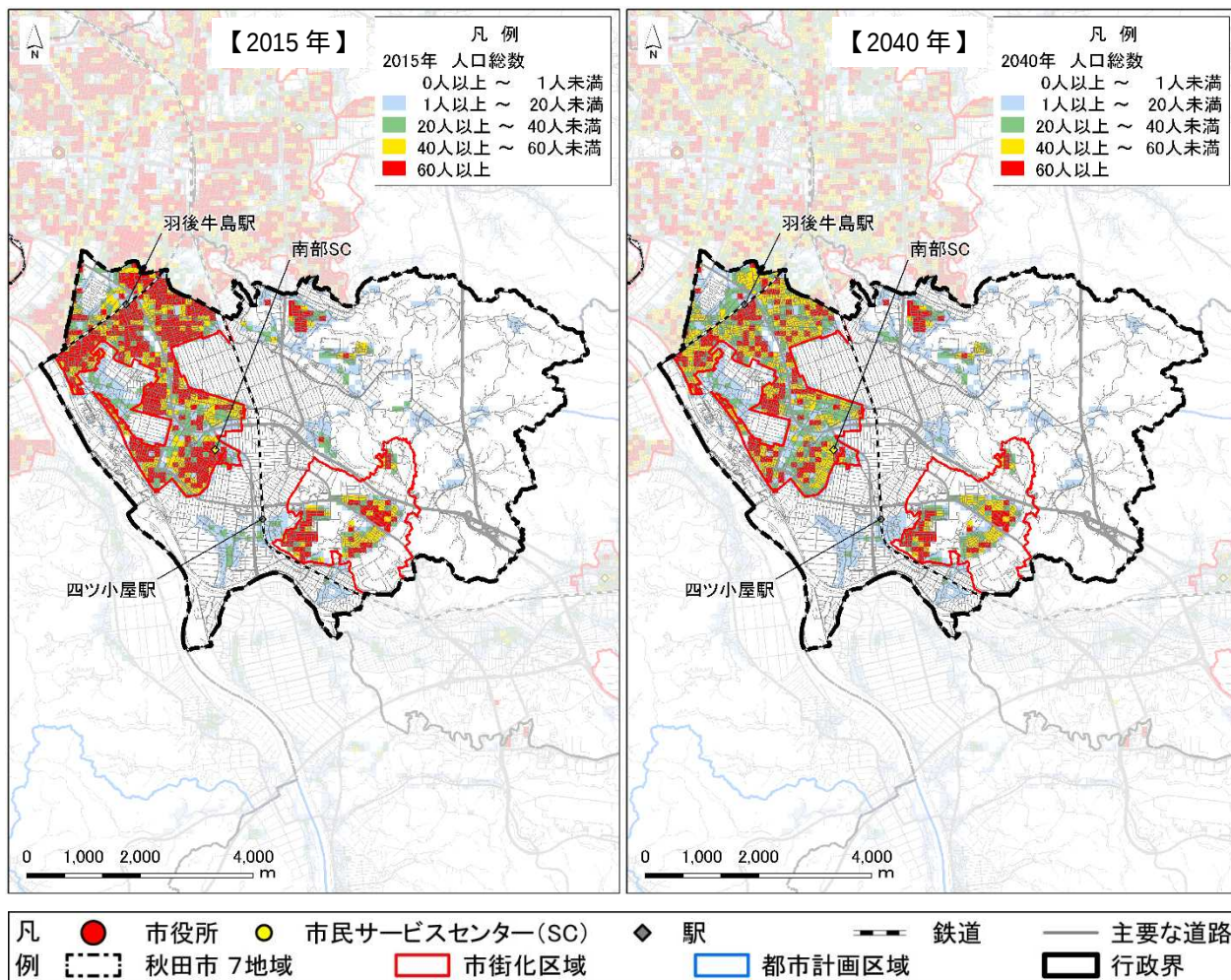


図4-3 人口動向

出典：国勢調査 100m メッシュ（2000～2015 年） 2015 年国勢調査 100m メッシュに基づき推計（2020 年～）

(3) 地域の現状・課題

土地利用

主な課題	■ 御所野地区は、地域内のみならず、他地域からも利用される拠点として、拠点性の維持・向上に資する適正な土地利用の誘導を図る必要があります。 ■ 牛島や仁井田、御野場地区は、既存ストックの活用や低未利用土地への対応に取り組み、居住環境の維持・改善を図っていく必要があります。 ■ 地域にある雄物川等の水辺空間、農地や樹林地等の緑地空間を貴重な地域資源として捉え、無秩序な市街化の抑制や市民・NPO 等の多様な主体との協働・参画による管理・保全を図る必要があります。
------	---

〔概況〕

- 市街化区域内の土地利用は、住宅用地の割合が多く、市街化区域全体の構成比よりも 5.7 ポイント多い 37.8% を占めています。また、商業用地も 3.1 ポイント多い 9.2% を占めています。

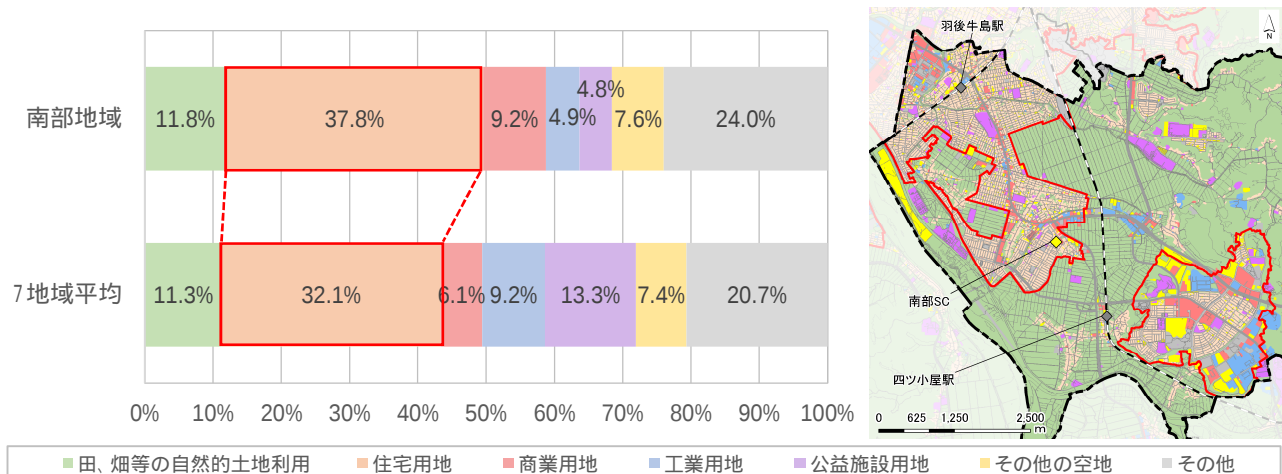


図 4 - 4 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布

出典：平成 28 年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

〔商業・業務地〕

- 御所野地区では、大規模集客施設が併設された大規模なショッピングセンターのほか、スーパーや飲食店等の商業施設が集積しており、地域内・外から利用される商業の拠点として、その機能を維持していくことが求められています。
- 国道 13 号の沿道に、比較的大規模な沿道型の商業施設が分布しており、近隣住民の身近な買い物の場として、その機能を維持していくことが求められています。

〔住宅地〕

- 御所野地区では、職住近接型のニュータウンとして、商業施設や工業・流通施設と近接し、都市基盤が整備された良好な住宅地が形成されています。御所野地区内の住宅地のうち、半数以上の範囲で地区計画が策定されており、住環境の保全が図られています。また、中央地域から連続している牛島や仁井田、御野場等の各地区では、大小様々な住宅団地が整備されており、市街化区域全体で、比較的高い密度の住宅地が形成されています。

- 市街化調整区域では、山手台や南ヶ丘において大規模な住宅団地が整備されており、地区計画によって住環境の保全が図られています。その他の地区では、田園地帯に既存集落が分布しています。
- 御所野地区の住宅地のほか、市街化調整区域の山手台・南ヶ丘の両地区でも人口が増加しており、今後も定住人口の確保に向け、良好な居住環境を維持していくことが求められています。
- 牛島や仁井田、御野場地区を中心に高齢化率が高く、牛島地区では空き家が多く発生しており、既存ストックの保全・活用を図るほか、低未利用土地に対応しながら、住環境を保全していくことが求められています。
- 市街化調整区域の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

〔工業地〕

- 御所野地区に、住宅地周辺に居住者の就業の場となる秋田新都市産業区が整備されており、工業や流通業務施設が集積しています。
- 卸町地区に、卸団地（秋田卸センター）が整備され、流通業務施設が集積しています。
- これらの工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業・事業環境を維持していくことが求められています。

〔自然環境等〕

- 市街化調整区域では、地域中央の平野部に優良農地が、東側に丘陵地が広がっており、市街地と自然環境が近接しています。丘陵地は、谷筋の農地と既存集落によって、里地里山が残されています。
- 地域の西側に広大な河川緑地を有する雄物川、南北の地域境界となる太平川や岩見川、地域の中央部に猿田川が流れています。
- 金照寺山を中心としたまとまった緑地に風致地区を指定し、良好な自然環境を保全しています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。
- 猿田川や古川流域の宅地等では、これまで浸水被害に複数回見舞われています。土砂や浸水被害の危険性のある区域では、ハード・ソフトの両面から対策に取り組むことが求められています。

交通体系

主な課題	■ 隣接する河辺・雄和の各地域との連携・交流のほか、河辺・雄和の各地域と他地域との連携・交流を支えるため、公共交通サービスの維持・増進を図る必要があります。
------	--

〔道路〕

- 市街地環状道路に位置づけた都市計画道路横山金足線や御所野追分線は、地域内の全区間が整備済です。

- 外周部環状道路に位置づけた都市計画道路秋田外環状道路や南部中央線等の路線は、地域内の全区間が供用済です。
- 放射道路および分散導入路、交通結節点アクセス路に位置づけた都市計画道路御所野追分線や秋田空港線等の路線は、地域内の全区間が供用済です。
- これらの骨格道路は、機能の保全に向けた計画的な維持・改修が求められています。

〔公共交通〕

- JR 奥羽本線の四ツ小屋駅および JR 羽越本線の羽後牛島駅が立地しています。
- 地域内には、鉄道や路線バスのほか、マイタウン・バス（コミュニティバス）が運行されています。また、御所野地区の大規模な商業施設および秋田赤十字病院が、路線バスとマイタウン・バスの主要な接続地点として河辺・雄和の各地域との連携・交流を支えており、地域間の円滑な移動が行える環境を維持していくことが求められています。

住環境・市街地整備等

主な課題	■ 御所野地区は、多様な機能が集積する利便性の高い住宅地として、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。 ■ 緑を配した良好な住宅地景観や市街地に近接する自然環境を保全する必要があります。
------	--

〔都市機能等〕

- 御所野地区は、医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービスを提供する施設が集積しています。また、御所野総合公園をはじめ、身近に利用できる都市公園が多く分布しているほか、秋田テルサやゴルフ場などのスポーツ施設も立地しています。
- 御野場地区に、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する南部市民サービスセンター（なんびあ）が立地しています。
- 上北手地区に、救急救命センターである秋田赤十字病院が立地しています。
- 都市と農村との交流を促進する施設として、仁井田スーパー農園（市民農園）が立地しています。
- 地域中心である御所野地区は、既存の生活サービス施設やスポーツ施設を生かし、拠点性を維持・増進していくことが求められています。
- 一つ森公園や雄物川の河川緑地など、周辺の自然環境と一体となったレクリエーション施設が立地しています。また、雄物川や岩見川の堤防に、県道雄和仁別自転車道や秋田河辺雄和自転車道が整備され、広域的な自転車道路ネットワークを形成しており、交流人口の拡大に向け、これらの施設の機能維持・拡充および積極的な活用が求められています。

〔景観〕

- 御所野地区は、街路樹等の緑を配し、整然とした街並みが広がっており、その環境を保全するため地区計画が定められています。今後とも、統一感のある街並み景観の形成に向けた取組が求められています。
- 市街化調整区域は、市街地に近接して田園や森林景観が広がり、太平川の桜並木など四季を感じられる良好な景観を形成していることから、これらの緑地等の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「上水道・下水道の整備状況」や「日常の買い物の便利さ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合は、市全体と同程度の66.9%となっています。その理由として、「買い物や医療など生活に便利」や「地域に愛着がある」、「治安が良い」、「住み替える資金がない」が挙げられています。

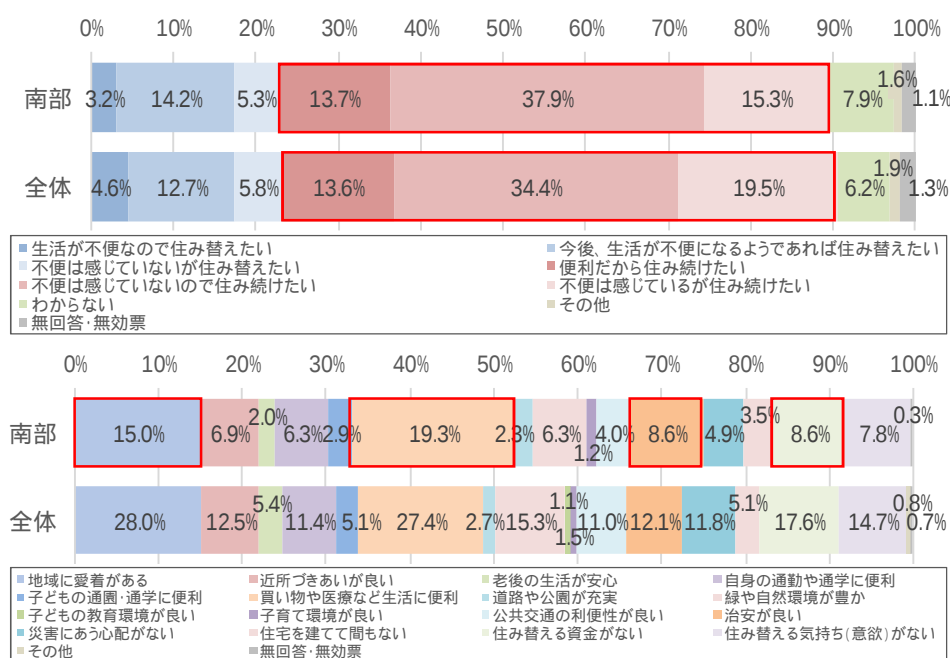


図 4 - 5 南部地域居住者の住み替え意向（上図）および南部地域に住み続けたい理由（下図）

出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

4 - 2 . 地域づくりの方向性（案）

【地域づくりの方向性(案)】

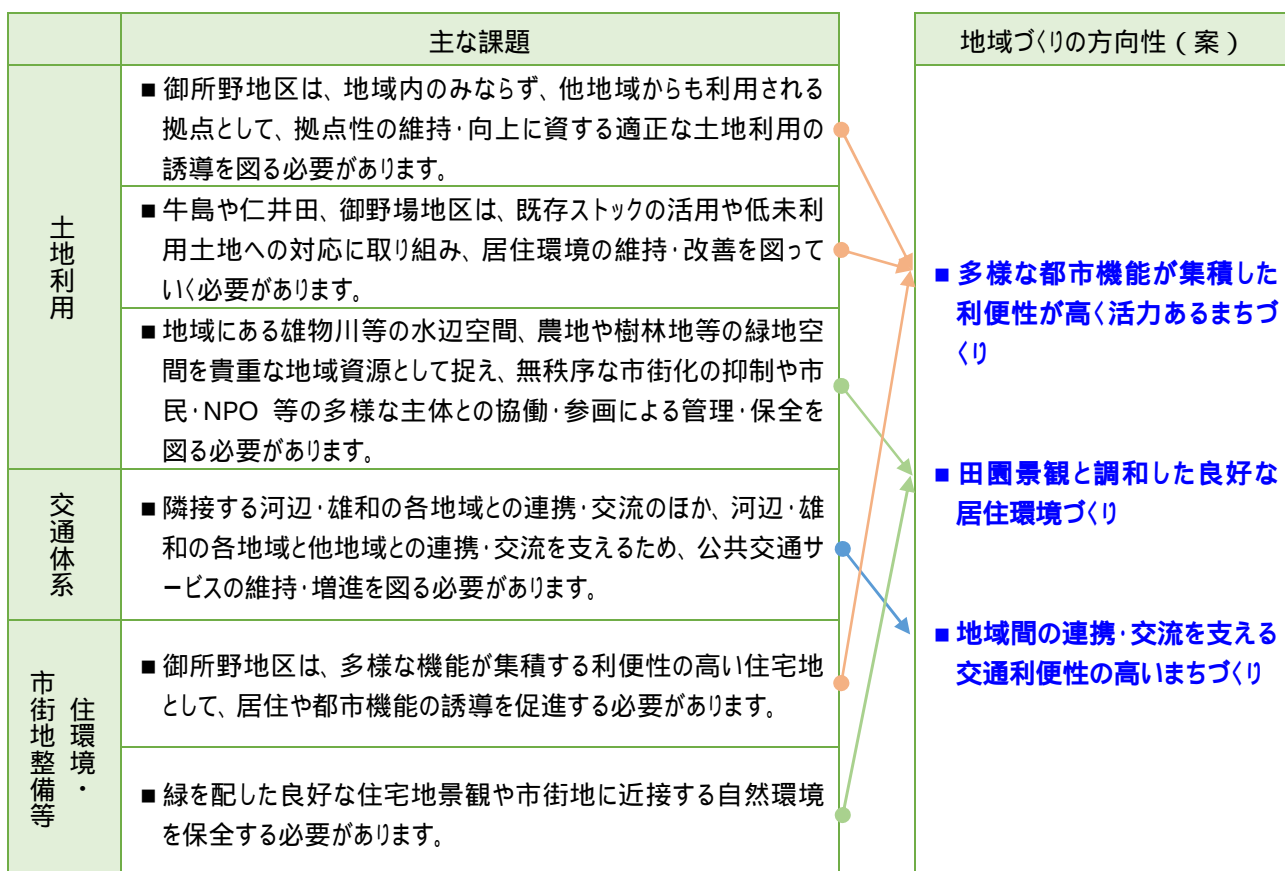
- 多様な都市機能が集積した 利便性が高く活力あるまちづくり
- 田園景観と調和した 良好な居住環境づくり
- 地域間の連携・交流を支える 交通利便性の高いまちづくり

本地域は、地域内を東西に走る国道 13 号沿線や御所野地区など、商業・産業・医療・交通等の多様な都市機能が集積する生活利便性の高い地域です。

今後も、御所野地区を中心に都市機能や居住の誘導を促進し、地域内外から多くの人が集まる活力あるまちづくりを進めます。

田園・丘陵地域や雄物川の水辺空間など、本地域が有する豊かな自然環境については、引き続き適切な保全活動を促進します。また、市街地については、周辺の田園環境との調和に配慮するとともに、自然災害への対応なども含め良好な居住環境の形成を図ります。

御所野地区については、本地域だけでなく、河辺・雄和地域等の周辺地域の都市機能を補完する地域連携拠点となることから、鉄道やバス路線など、既存の公共交通機関との連携強化や幹線道路の機能維持により、周辺地域への交通利便性が高いまちづくりを目指します。



5．北部地域

5 - 1．地域の概要

(1) 概況

- 北部地域は、西側に秋田港や鉄道駅を中心とした市街地が形成されており、東側には田園や丘陵地などの豊かな自然環境が広がっています。
- 本地域の地域中心である土崎地区は、港町として栄えてきた歴史があり、羽州街道沿いや土崎駅周辺を中心に市街地が形成されてきました。本町通りや中央通りに商業地が形成され、国道 7 号沿道には沿道型の商業施設が立地しています。
- 秋田港は、港湾機能に加え、地域住民や国内外観光客の親水・交流の場となっているほか、その周辺には、工業団地が整備され、産業や物流、エネルギー供給の役割担っています。
- また、市街地の周辺には、農地や丘陵地が広がり、史跡秋田城跡や県立小泉瀉公園、大滝山自然公園などの歴史・文化資源も立地するなど、多様な特性を有しています。
- 人口は、2015 年（平成 27 年）で 78,699 人であり、2005 年（平成 17 年）からの 10 年間で 6,270 人（7.4％）減少しています。高齢化率は 2015 年で 30.0％となっており、7 地域の中では河辺・雄和の各地域に次いで 3 番目に高齢化率が高くなっています。
- 世帯数は、2015 年で 31,796 世帯であり、2005 年からの 10 年間で 321 世帯（1.0％）増加しています。



図 5 - 1 位置図

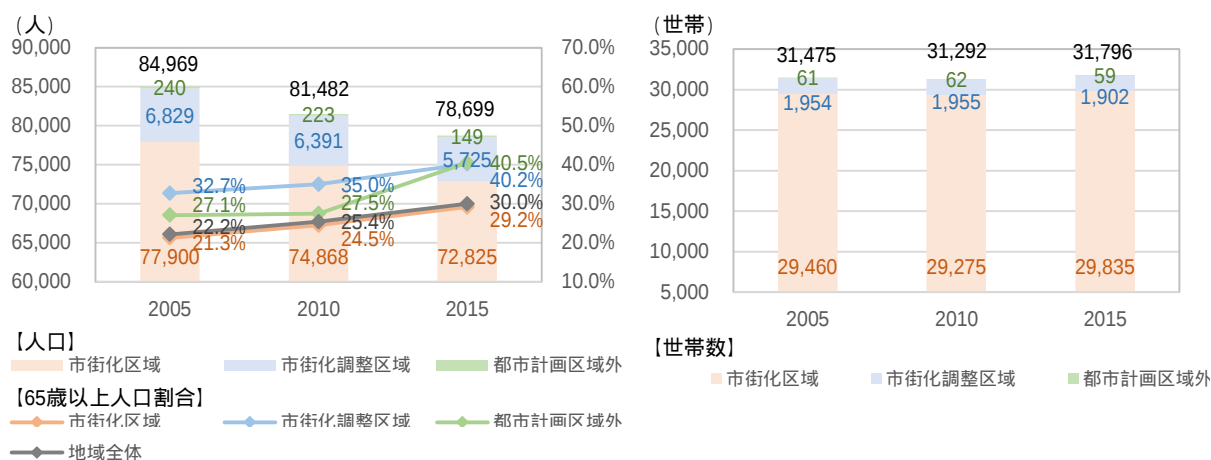


図 5 - 2 2005～2015 年における人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

注：国勢調査 100mメッシュは小数点第 2 位で整理されており、四捨五入により地域全体の合計値と合わない場合がある

(2) 人口動向

- 人口減少が加速していくことが予想されます。また、高齢化率も継続して増加していくことが予想されます。

【人口（人／年）】2005～2015年：-627、2015～2030年：-673、2030～2040年：-915

【高齢化率（ポイント／年）】2005～2015年：+0.78、2015～2030年：+0.68、2030～2040年：+0.50

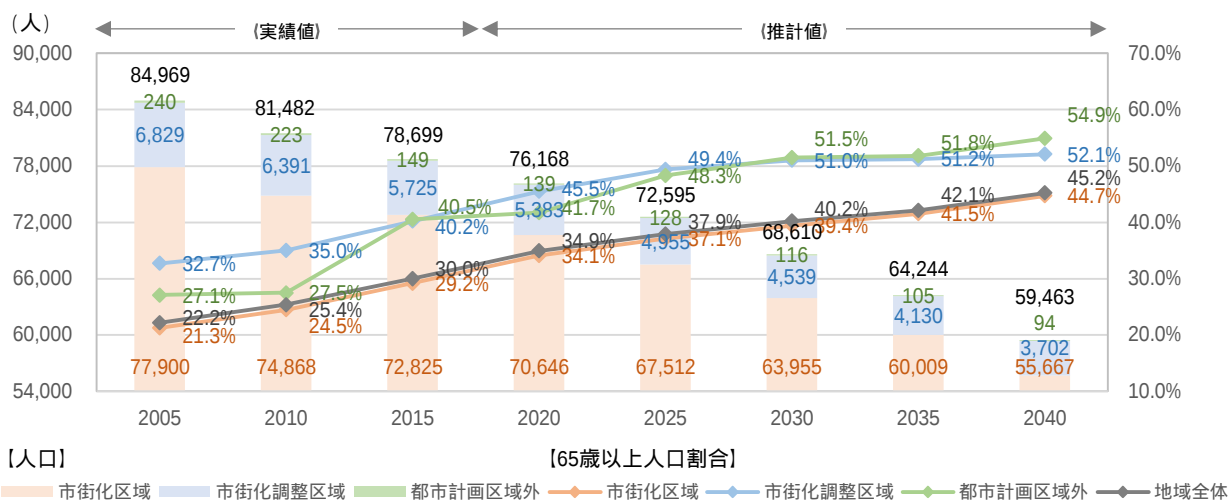
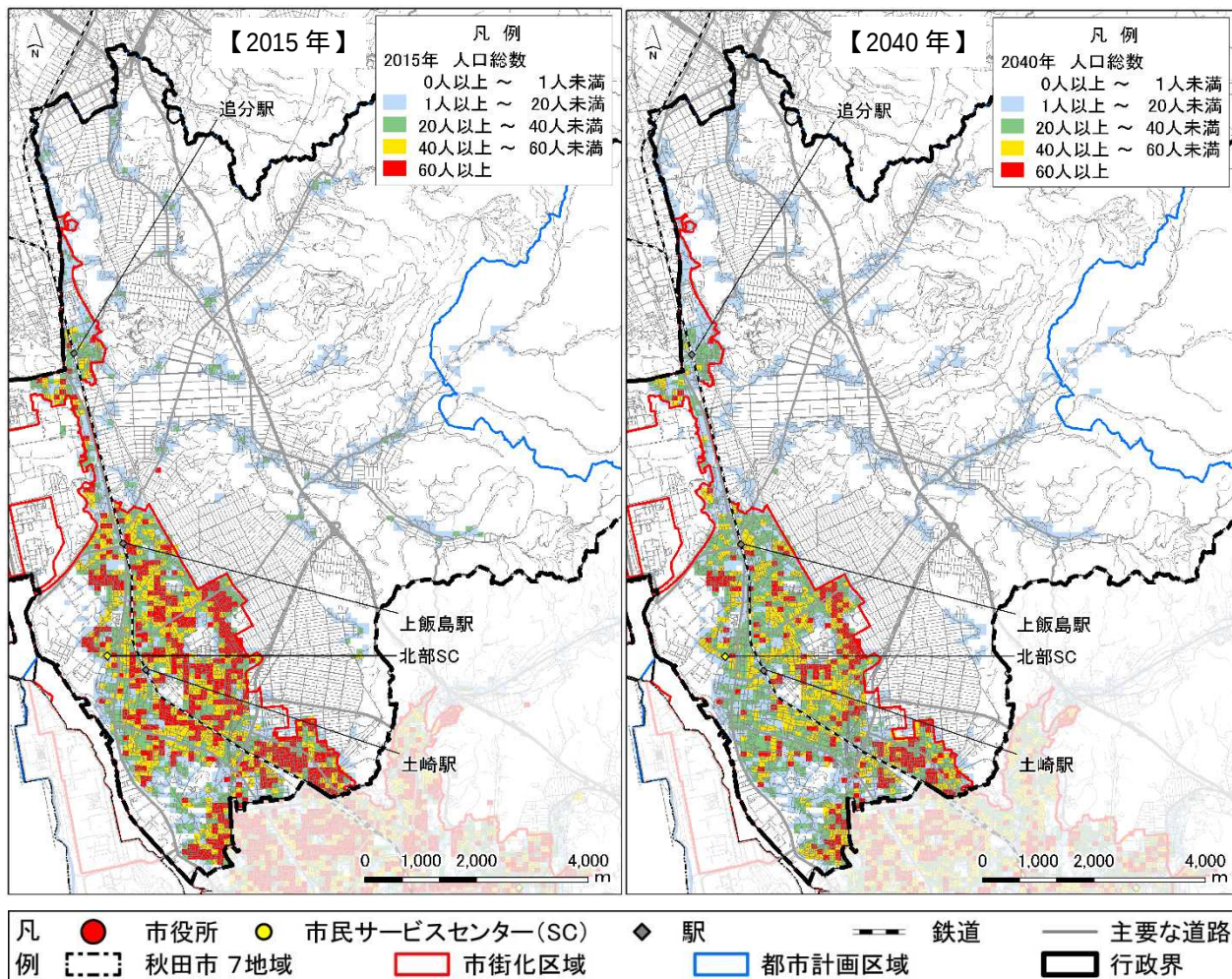


図5-3 人口動向

出典：国勢調査100mメッシュ（2000～2015年）2015年国勢調査100mメッシュに基づき推計（2020年～）

(3) 地域の現状・課題

土地利用

主な課題	■ 土崎地区は、住民の身近な買い物の場として、日常の暮らしの中で必要な機能を維持・増進し、拠点性の維持・向上を図る必要があります。 ■ 既存の住宅ストックの保全・活用、低未利用土地への対応などに取り組み、住環境を保全していく必要があります。 ■ 秋田港を中心とした工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業・事業環境を維持していく必要があります。
------	--

〔概況〕

- 市街化区域内の土地利用は、住宅用地の割合が多く、市街化区域全体の構成比よりも 4.2 ポイント多い 36.3%を占めています。

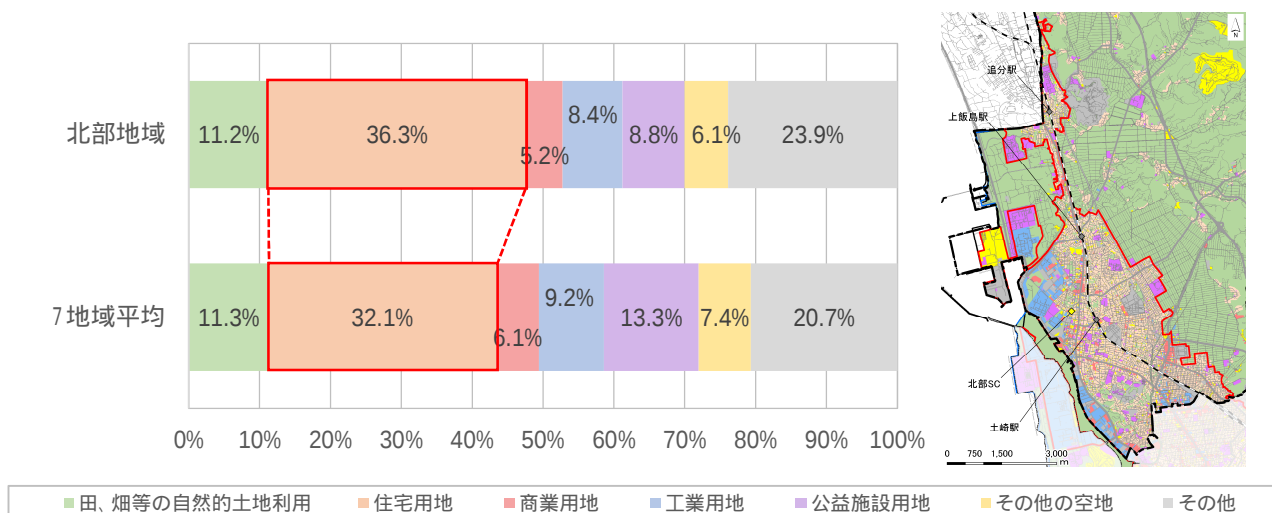


図 5 - 4 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布

出典：平成 28 年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

〔商業・業務地〕

- 土崎地区の本町通りや中央通りに商店街が形成されていますが、廃業等により空き店舗が発生するなど、住民の身近な買い物の場となる既存商店街の疲弊が顕在化しており、商業施設の進出を促す環境整備等が求められています。
- 国道 7 号や主要地方道秋田天王線（通称：新国道）、秋田北インター線等の幹線道路沿道に、比較的大規模な沿道型の商業施設が分布しており、今後とも、その機能を維持していくことが求められています。

〔住宅地〕

- 市街化区域内では、秋田港周辺や旧雄物川沿岸を除き全体的に住宅地が形成されており、土崎駅周辺や将軍野地区、外旭川地区では他地区と比較して密度が高い住宅地が形成されています。
- 市街化調整区域では、田園地帯や山間部に既存集落が分布しています。
- 市街化区域内では鉄道駅周辺で高齢化率が高く、特に土崎駅周辺を中心に、空き家が多く発生しています。
- 地域中心である土崎地区では、既存の住宅ストックの保全・活用を図りながら、人口密度を維持していくことが求められています。また、市街化区域内のその他の住宅地では、低未利用土地に対応しながら、住環境を保全していくことが求められています。
- 市街化調整区域の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

〔工業地〕

- 秋田港および旧雄物川沿岸は臨港地区を指定しており、工業や流通業務施設等が集積しています。また、秋田貨物駅の周辺に、工業や流通業務施設等が分布しています。
- これらの工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業・事業環境を維持していくことが求められています。

〔自然環境等〕

- 市街化調整区域では、平野部に優良農地が、さらにその外側に丘陵地が広がっており、市街地と自然環境が近接しています。丘陵地は、地域内を流れる河川の源流域となっており、多くの堤を有するなど、水資源に恵まれています。
- 地域内には、旧雄物川のほか、新城川や草生津川が地域内を流れています。
- 県立小泉潟公園や高清水公園等を中心とした緑地に風致地区を指定し、良好な自然環境を保全しています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。
- 新城川流域の宅地等では、これまで浸水被害に複数回見舞われており、洪水による被害を防止するため、河川改修事業が進められています。今後とも、土砂や浸水被害の危険性のある区域では、ハード・ソフトの両面から対策に取り組むことが求められています。

交通体系

主な課題

- 他地域との連携・交流を支える、道路網や公共交通の機能維持・増進を図る必要があります。

〔道路〕

- 市街地環状道路および外周部環状道路に位置づけた都市計画道路横山金足線や大浜上新城線等の路線は、都市計画道路臨海秋操線の一部の整備が未着手となっています。
- 放射道路に位置づけた都市計画道路御所野追分線や秋田港北線等の路線は、都市計画道路横山金足線の一部の整備が未着手となっています。
- 分散導入路や交通結節点アクセス路に位置づけた都市計画道路新屋土崎線や外旭川上新城線等の路線は、都市計画道路泉外旭川線の一部の整備が未着手となっています。
- これらの骨格道路は、さらなるアクセス性の向上に向けた維持・改修が求められています。

〔公共交通〕

- JR 奥羽本線の土崎駅、上飯島駅、追分駅が立地しており、2021 年（令和 3 年）に泉外旭川駅の開業が予定されています。
- 地域内には、鉄道や路線バスのほか、マイタウン・バス（コミュニティバス）が運行されており、幹線道路を中心として、バス路線が複数運行されるなど、他の地域と比較して公共交通の利便性が高い地域となっています。
- 秋田港では、苫小牧・新潟・敦賀を結ぶフェリーが運航されています。また、定期的にクルーズ船が寄港し、訪日外国人旅行客の回遊の起点となっています。
- 鉄道駅は、交通結節点としての機能維持・強化を図るとともに、都心・中心市街地へのアクセス性の維持に取り組むなど、地域内・地域間の円滑な移動が行える環境づくりが求められています。

住環境・市街地整備等

主な課題

- 土崎地区は、地域住民はもとより、秋田港への来訪者にも利用される商業地として、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。
- 港町が有する特徴的な歴史・文化を生かし、魅力的な市街地景観を形成していく必要があります。

〔都市機能等〕

- 土崎駅を中心として、医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービスを提供する施設が分布しています。また、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する北部市民サービスセンター（キタスカ）や土崎図書館等の公共公益施設も立地しています。
- 飯島地区に、総合病院である秋田厚生医療センターが立地しています。

- 土崎港の周辺には、土崎地域の歴史と文化を伝承するための拠点施設として、秋田市土崎みなと歴史伝承館が立地しています。また、道の駅「あきた港」が立地しており、施設内には市街地を一望できる秋田市ポートタワーセリオン、屋内緑地公園のセリオンリスタ、様々な活動を多目的に利用できるセリオンプラザを配置しています。
- 高清水公園や県立小泉潟公園、大滝山自然公園などが整備されており、市内外からの観光交流の拠点となっています。
- 地域中心である土崎地区は、既存の公共公益施設や生活サービス施設、文化・交流施設、観光施設を生かし、拠点性を維持・増進していくことが求められています。
- 多くの学生が集まる秋田県立大学が立地しており、大学との連携強化や地域住民との交流促進等が求められています。
- 卸売市場の再整備にあたっては、アクセス性等立地条件や利用者ニーズを踏まえた施設整備および周辺土地利用の検討が求められます。

〔景観〕

- 土崎地区の本町通り周辺は、町家や商家、寺社等の歴史的建造物が点在しています。また、土崎駅周辺では電線類の地中化による港町としての趣を生かした景観づくりが進められています。
- 秋田港周辺は、本市の代表的な臨海部の工業地景観を形成しています。また、秋田市ポートタワーセリオンでは、展望室から市街地を一望することができます。
- 今後とも、港町とした発展した本地域の特徴を生かした景観づくりが求められています。
- 市街化調整区域は、市街地に近接して田園や森林景観が広がり、四季を感じられる良好な景観を形成していることから、これらの緑地等の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「上水道・下水道の整備状況」が最も高く、次いで「緑の豊かさ」、「公園整備や緑化」や「保育園・幼稚園の近さ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合は、市全体と同程度の66.8%となっています。その理由として、「地域に愛着がある」や「買い物や医療など生活に便利」、「災害にあう心配がない」が挙げられています。

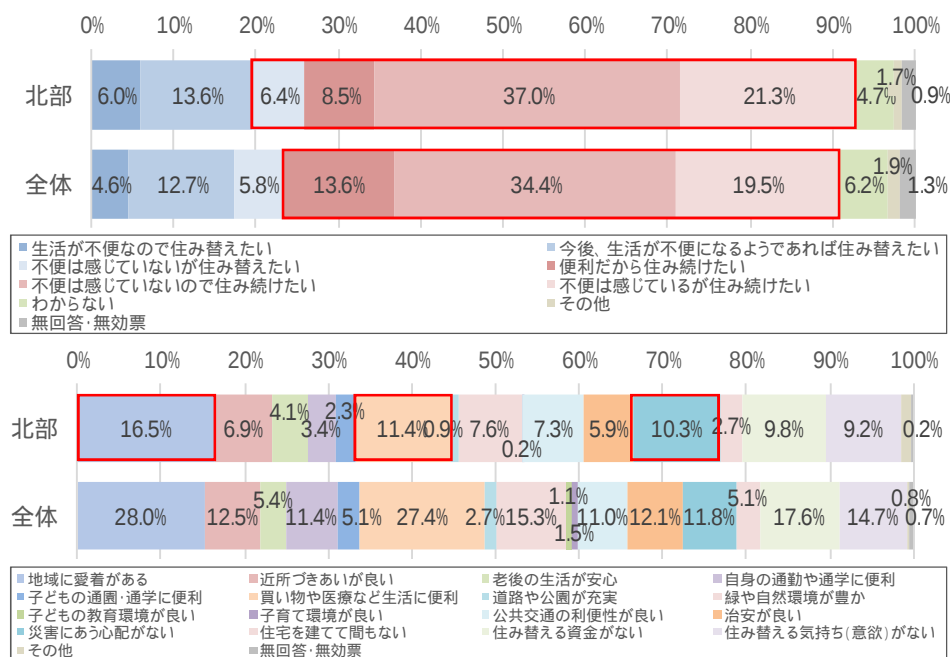


図5-5 北部地域居住者の住み替え意向（上図）および北部地域に住み続けたい理由（下図）

出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

5 - 2 . 地域づくりの方向性（案）

【地域づくりの方向性(案)】

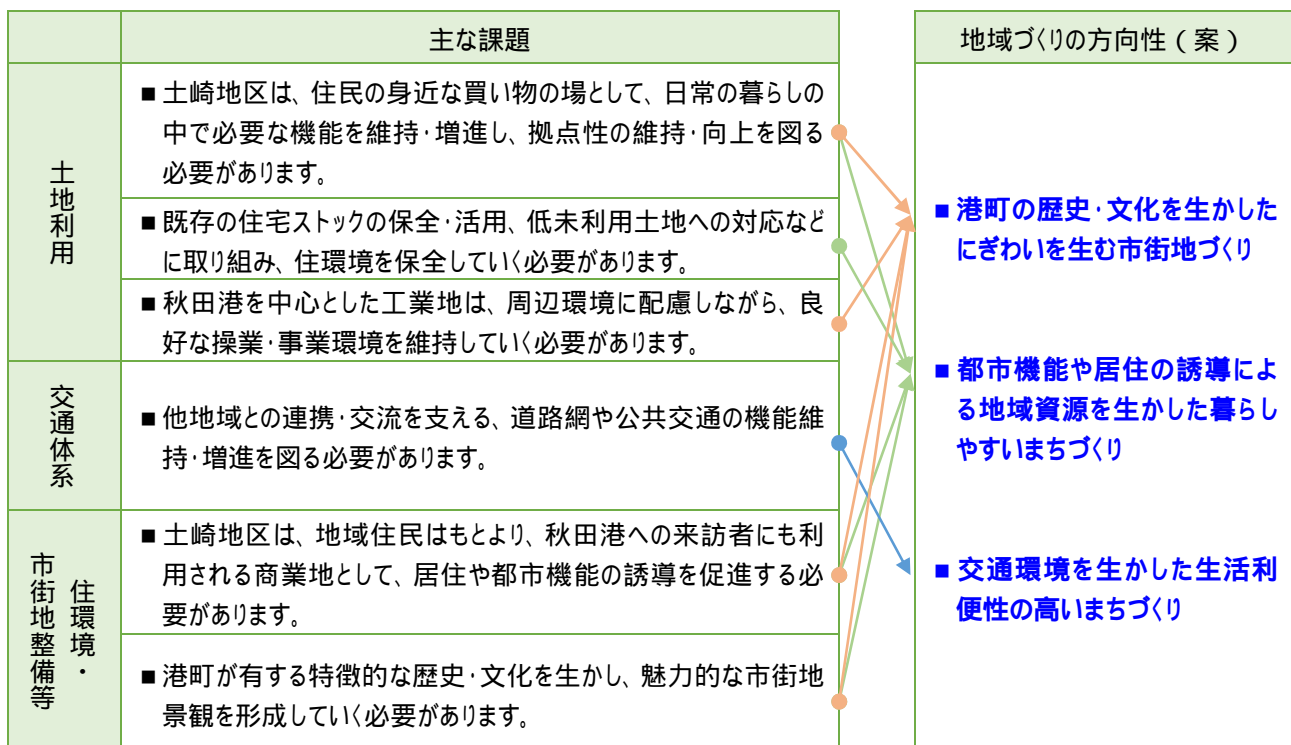
- 港町の歴史・文化を生かした にぎわいを生む市街地づくり
- 都市機能や居住の誘導による 地域資源を生かした暮らしやすいまちづくり
- 交通環境を生かした 生活利便性の高いまちづくり

本地域は、北東北の海の玄関口となる秋田港や本市の産業を支える工業地帯を有した地域です。

今後も、港湾機能の強化とともに良好な操業環境の維持を図りながら、港町としての特性を生かしたまちづくりを進め、産業の活性化と地域活力の創出に向けた取組を進めます。

本地域の地域中心である土崎地区には多様な都市機能が集積しており、市街地の周辺には、海岸部の松林や田園・丘陵地などの自然的資源、史跡や公園、大学をはじめとする歴史・文化資源などを有しています。今後も、土崎地区を中心に都市機能や居住を誘導するとともに、多様な地域資源の保全・活用・連携を図りながら、魅力ある交流型のまちづくりを推進し、地域の活性化を目指します。

また、泉外旭川駅の開業や、新たな幹線道路の開通が見込まれるなど、恵まれた公共交通環境を生かし、鉄道やバス交通の連携強化を図るとともに、公共交通軸沿線や幹線道路沿道における利便性の高い市街地の形成を目指します。



6．河辺地域

6 - 1．地域の概要

(1) 概況

- 河辺地域は、和田駅の北側から国道 13 号にかけて市街地が形成されており、地域を東西に流れる岩見川等の河川沿いに集落や田園が広がる緑豊かな環境です。
- 市街地には河辺市民サービスセンター等の行政機能や公共公益機能が立地し、地域の中心的な役割を担っており、商業機能は和田駅周辺および国道 13 号沿道に見られます。
- また、高速道路インターチェンジや秋田空港に近接した七曲臨空工業団地が立地しているほか、市街地の外側では、平野部に農地、その外側に樹林地が広がっています。また、峯谷峡や三内溪谷、国指定天然記念物の筑紫森岩脈といった景勝地が点在しています。
- 人口は、2015 年（平成 27 年）で 8,533 人であり、2005 年（平成 17 年）からの 10 年間で 1,778 人（17.2％）減少しています。高齢化率は 2015 年で 37.4％となっており、7 地域の中で最も高齢化率が高くなっています。
- 世帯数は、2015 年で 2,954 世帯であり、2005 年からの 10 年間で 189 世帯（6.0％）減少しており、人口減少の影響により世帯数の減少も進行しています。

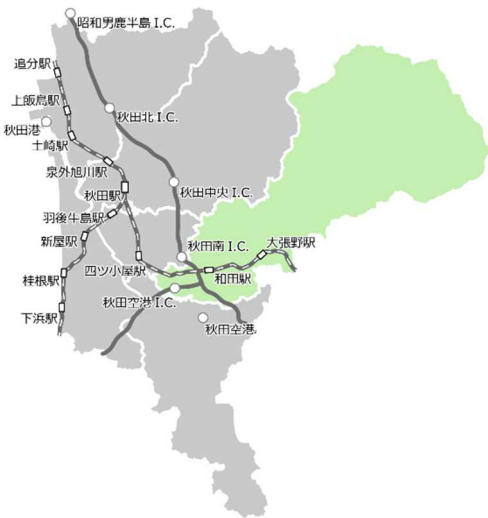


図 6 - 1 位置図

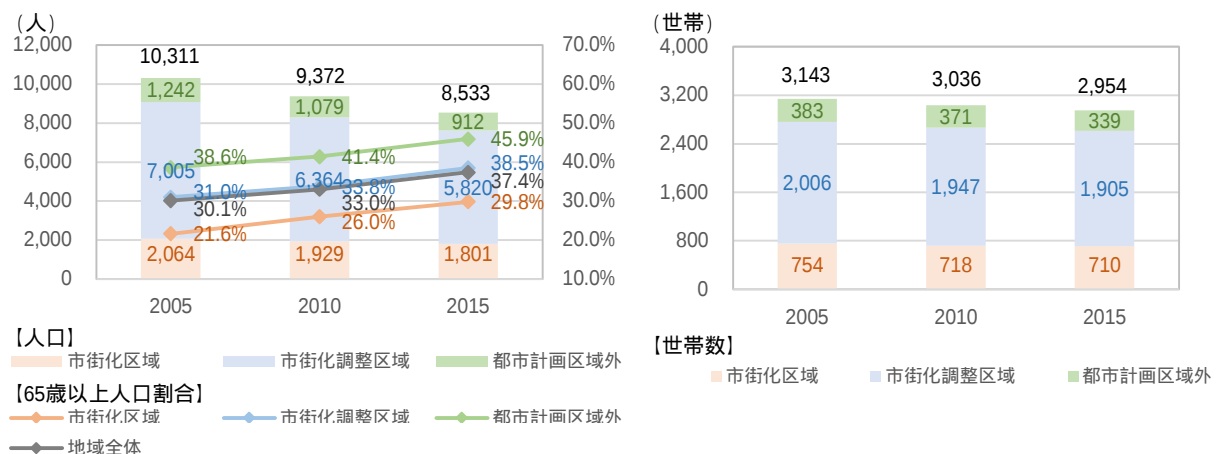


図 6 - 2 2005～2015 年における人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

注：国勢調査 100mメッシュは小数点第 2 位で整理されており、四捨五入により地域全体の合計値と合わない場合がある

(2) 人口動向

- 人口減少や高齢化が継続していくことが予想されます。

【人口（人／年）】2005～2015年：-178、2015～2030年：-106、2030～2040年：-118

【高齢化率（ポイント／年）】2005～2015年：+0.73、2015～2030年：+0.70、2030～2040年：+0.22

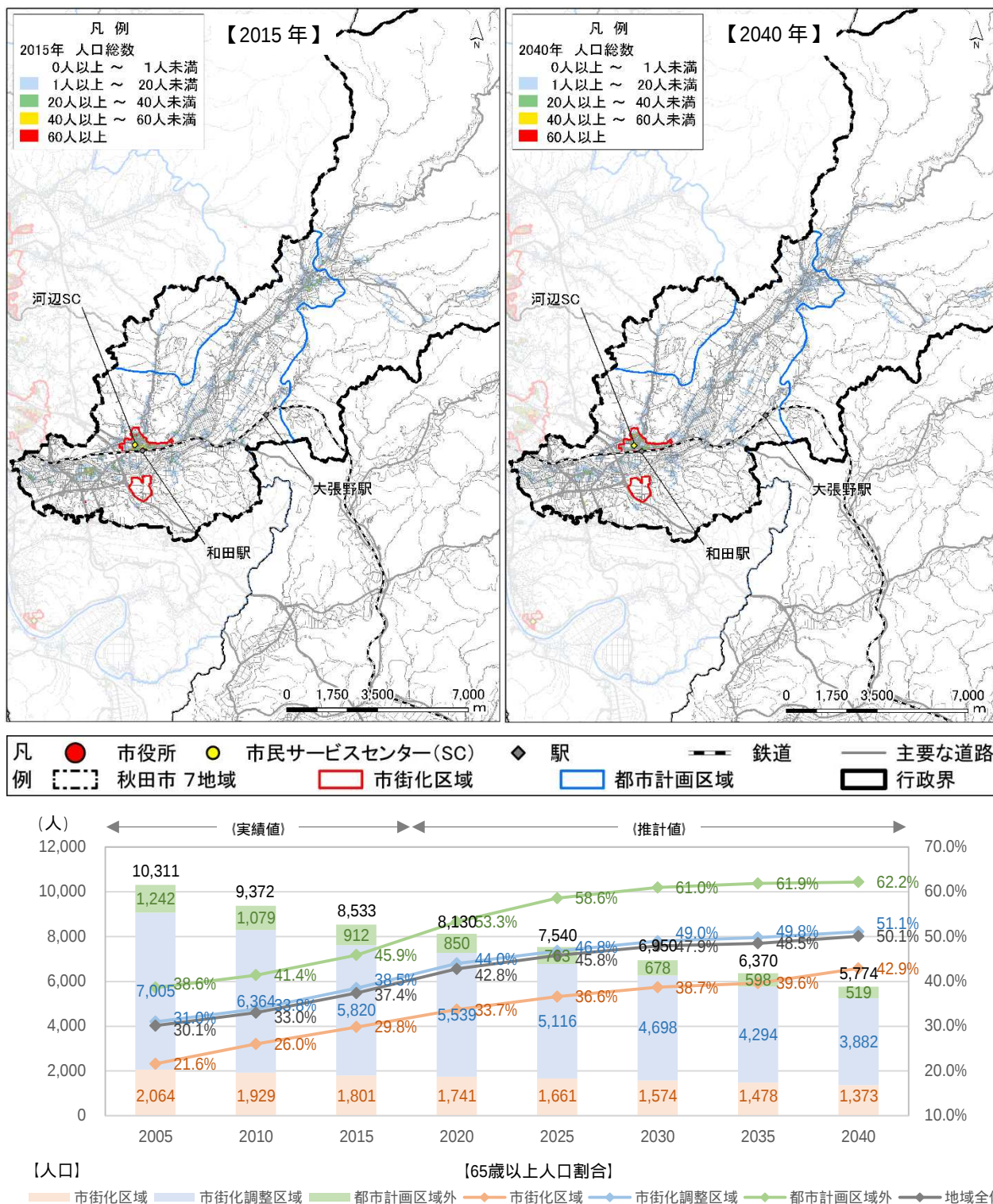


図 6 - 3 人口動向

出典：国勢調査 100m メッシュ（2000～2015 年）、2015 年国勢調査 100m メッシュに基づき推計（2020 年～）

(3) 地域の現状・課題

土地利用

主な課題	■ 地域中心である和田地区は、住民の身近な買い物の場として、日常の暮らしの中で必要な機能を維持し、拠点性の維持を図る必要があります。 ■ 既存の住宅ストックの保全・活用、低未利用土地への対応などに取り組み、住環境を保全していく必要があります。
------	--

〔概況〕

- 市街化区域内の土地利用は、工業用地の割合が多く、市街化区域全体の構成比の約 2 倍にあたる 18.8% を占めています。一方、商業用地の割合が少なく、市街化区域全体の構成比の約 1/2 にあたる 2.6% となっています。

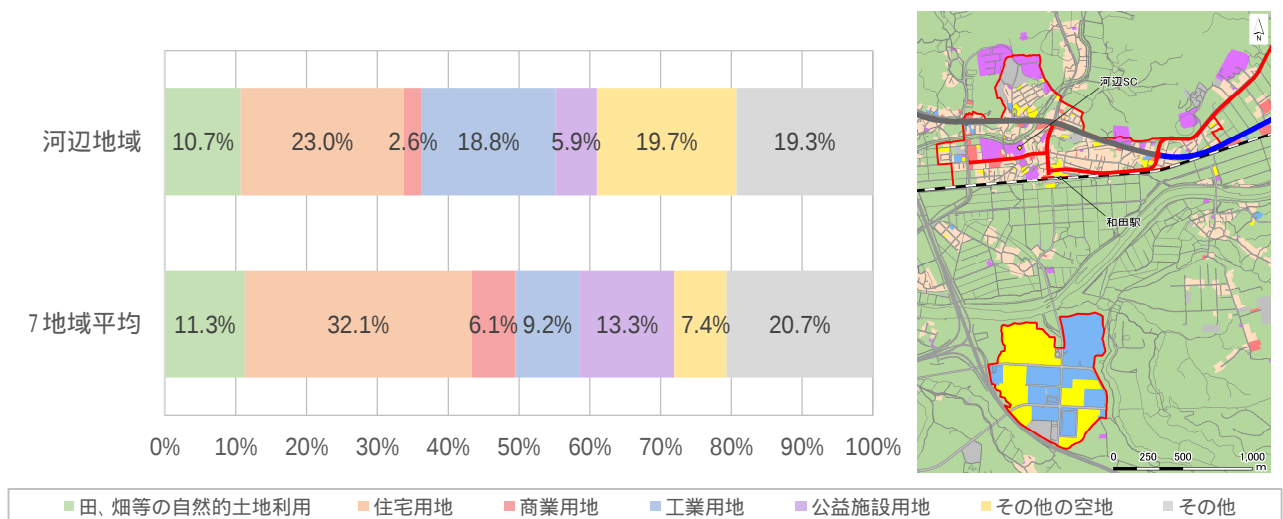


図 6 - 4 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布

出典：平成 28 年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

〔商業・業務地〕

- 和田駅から国道 13 号にかけて、県道和田停車場線沿道に商業地域を指定していますが、商業施設の集積は図られていません。
- 河辺市民サービスセンター周辺に、スーパーやドラッグストア、銀行等がまとまって立地しており、今後とも、その機能を維持していくことが求められています。

〔住宅地〕

- 市街化区域である和田地区は、県道和田停車場線および国道 13 号の沿道を除き、全てに住居系用途地域を指定し、低層の住宅地が広がっていますが、居住人口は地域全体の 20% 程度です。
- 市街化調整区域では、主要地方道秋田北野田線や県道河辺阿仁線等の主要な道路沿道を中心に既存集落が分布しています。
- 河辺市民サービスセンター周辺を除き、地域全体で高齢化率が高く、特に和田駅周辺や岩見三内地区を中心に、空き家が多く発生しています。

- 地域中心である和田地区では、既存ストックの保全・活用や低未利用土地に対応しながら、人口密度を維持していくことが求められています。
- 市街化調整区域の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

〔工業地〕

- 七曲臨空工業団地が整備され工業施設が立地していますが、団地内に未分譲地が多く残っており、高速道路網や秋田空港等の交通環境を生かし、企業誘致等による土地の利活用を進めていくことが求められています。

〔自然環境等〕

- 市街化調整区域では、丘陵部に樹林地、平野部に優良農地が分布しており、地域の大半が田畑や山林となっています。これらの樹林地や農地は、維持管理が行われず、耕作放棄地等になっているものも見受けられます。
- 地域内に岩見川が流れており、川沿いではホタルの観察が可能な良好な自然環境が残されています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。

交通体系

主な課題

- 地域中心である和田地区と他地域との連携・交流を支える、道路網や公共交通の機能維持・増進を図る必要があります。

〔道路〕

- 放射道路に位置づけた都市計画道路神内和田線は、地域内の全区間が整備済みもしくは事業中です。
- 骨格道路は、さらなるアクセス性の向上に向けた維持・改修が求められています。

〔公共交通〕

- JR 奥羽本線の和田駅、大張野駅が立地しています。
- 地域内には、鉄道やマイタウン・バス（コミュニティバス）が運行されていますが、運行本数の少なさや鉄道とバスの乗り継ぎの悪さ等の問題を有しています。また、バス路線から外れ、公共交通の利用が不便な地域もあります。
- 鉄道駅は、交通結節点としての機能維持・強化を図るとともに、都心・中心市街地や隣接する南部地域の御所野地区へのアクセス性向上に向け取り組むなど、地域内・地域間の円滑な移動が行える環境づくりが求められています。

住環境・市街地整備等

主な課題

- 地域中心である和田地区は、地域に不足する機能は他地域との連携により補完することとし、既存の商業・業務機能の維持に向け、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。
- 地域の広大な自然環境を保全するほか、レクリエーションなど地域の資源として活用していく必要があります。

〔都市機能等〕

- 医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービス施設は、地域内では主に和田地区に立地していますが、旧秋田市の5地域と比較すると、住民1人あたり施設数が少ない状況です。
- 和田地区に、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する河辺市民サービスセンター（カワベリア）が立地しています。
- 市街化区域内には、和田公園が整備されており、桜やツツジの鑑賞や眺望ポイントとして地域住民に利用されています。また、市街化区域に接して北野田公園が整備されており、屋内・外のテニスコートや大型の複合遊具が設置されています。
- 地域中心である和田地区は、既存の公共公益施設や生活サービス施設等の都市機能を維持し、拠点性を維持していくことが求められています。また、地域に不足する機能は他地域との連携により補完することが求められています。
- 地域の東部に太平山県立自然公園やへそ公園など、周辺の自然環境と一体となったレクリエーション施設が立地しており、市内外からのレクリエーションの拠点として、交流人口の拡大に向けた機能の維持・拡充および積極的な活用が求められています。

〔景観〕

- 旧羽州街道沿道の和田地区や戸島地区では、町家が点在しています。また、鵜養地区には、石積の堰や茅葺民家が残し、伝統的な農村景観をみることができます。これらの景観資源は、地域の歴史・文化を象徴するものとして保全することが求められています。
- 市街化調整区域では、田園や森林景観が広がっているほか、岨谷峡や三内溪谷、国指定天然記念物の筑紫森岩脈といった景勝地が点在し良好な景観を形成していることから、これらの自然景観の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「川や水路のきれいさ」や「自然景観の美しさ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合は、市全体と同程度の 68.2%となっています。その理由として、「地域に愛着がある」や「近所づきあいが良い」、「緑や自然環境が豊か」が挙げられています。

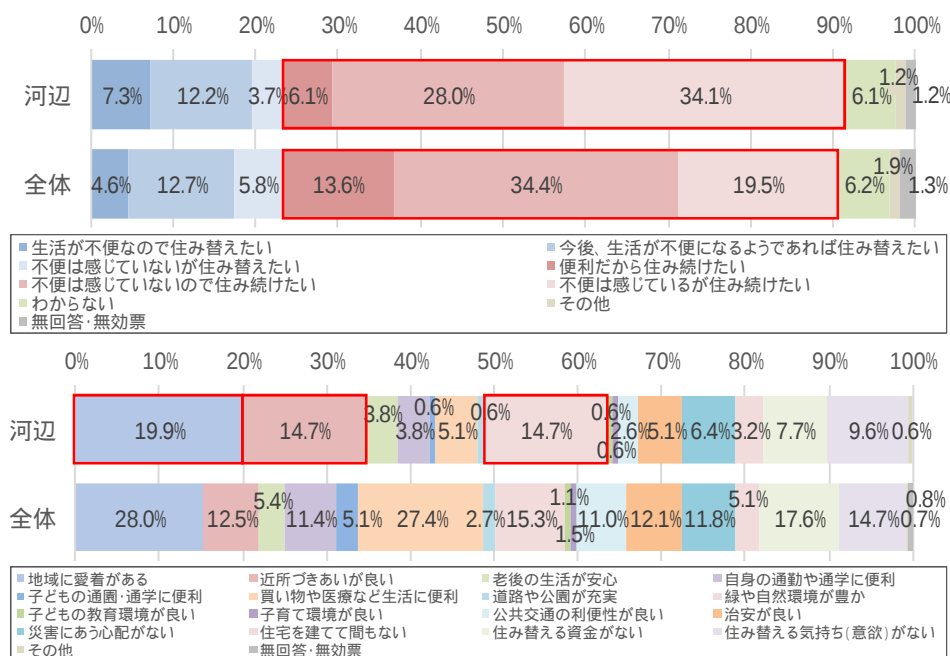


図 6-5 河辺地域居住者の住み替え意向（上図）および河辺地域に住み続けたい理由（下図）

出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

6 - 2 . 地域づくりの方向性（案）

【地域づくりの方向性(案)】

- 広大な自然環境を生かした やすらぎとうるおいが体感できるまちづくり
- 日常生活を支え 安心して暮らすことのできる市街地づくり
- 近隣地域との連携・交流によるまちづくり

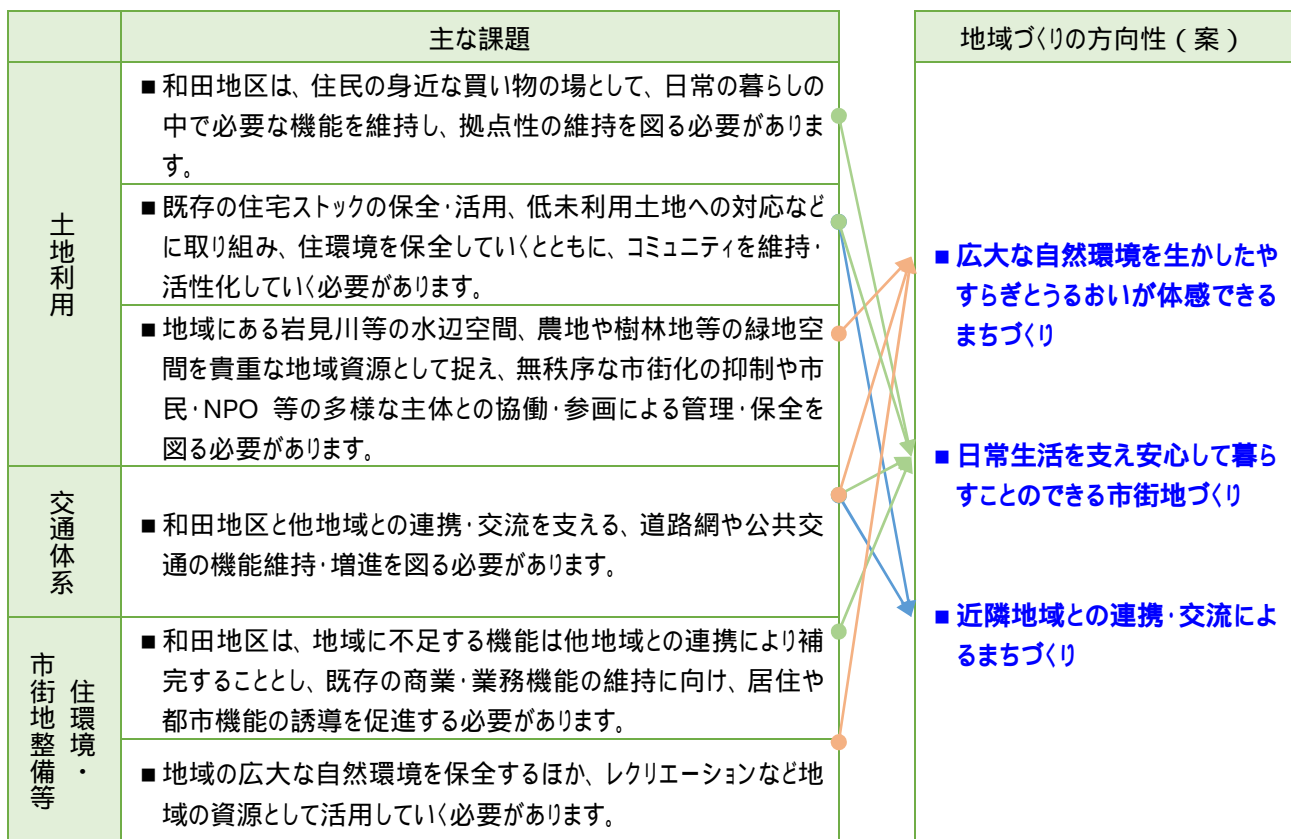
本地域は、太平山県立自然公園や岩見川など豊かな自然が広がり、旧羽州街道沿いの街並みや茅葺民家など地域の歴史を伝える資源や、峯谷峡等の優れた景勝地を有しています。

さらに、秋田空港が近接し、地域内に日本海東北自動車道のインターチェンジが整備されているなど、空と陸とを結ぶ交通の要衝でもあります。

これらの自然や景観資源、交通環境などを生かしながら、地域コミュニティの充実、都市と農村との交流などによりやすらぎやうるおいを体感できるまちづくりを進めます。

本地域の地域中心である和田地区では、行政・商業等の都市機能や交通結節機能を維持し、それらを支える居住を維持・誘導することで、安心して暮らすことのできる市街地の形成を目指します。

また本地域は、市内でも先行して高齢化が進行しており、日常の暮らしの中で必要なサービスを地域内外の施設で賄う必要があります。そのため、既存集落のコミュニティ維持に取り組むとともに、道路網や公共交通を活用した近隣地域との連携・交流によるまちづくりを進めます。



7. 雄和地域

7 - 1 . 地域の概要

(1) 概況

- 雄和地域は、地域の中央部を県内最大の河川である雄物川が流れ、その周辺に農地や山林が広く分布しています。
- 妙法地区には、雄和市民サービスセンターや雄和図書館など、行政機能や公共公益機能が立地し、戸米川地区や新波地区等の既存集落が国道 341 号や主要地方道秋田雄和本荘線等の幹線道路沿道に分布しています。
- また、地域内に秋田空港を有するとともに、国際教養大学や県農業試験場等の学術・研究施設、県立中央公園や高尾山レクリエーション施設等の観光・レクリエーション施設など、様々な機能が分布しています。
- 人口は、2015 年（平成 27 年）で 6,912 人であり、2005 年（平成 17 年）からの 10 年間で 925 人（11.8％）減少しています。高齢化率は 2015 年で 33.8％となっており、7 地域の中では河辺地域に次いで 2 番目に高齢化率が高くなっています。
- 世帯数は、2015 年で 1,979 世帯であり、2005 年からの 10 年間で 186 世帯（8.6％）減少しており、人口減少の影響により世帯数が減少に転じています。



図 7 - 1 位置図

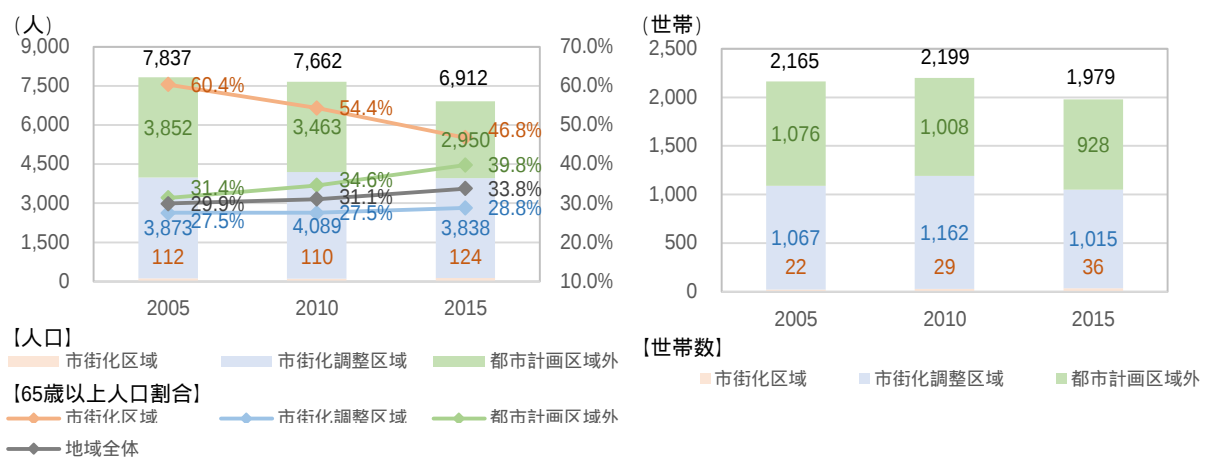


図 7 - 2 2005～2015 年における人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

注：国勢調査 100mメッシュは小数点第 2 位で整理されており、四捨五入により地域全体の合計値と合わない場合がある

(2) 人口動向

- 人口減少や高齢化が継続していくことが予想されます。また、高齢化率の上昇は2030年でピークに達し、その後は減少に転じることが予想されます。

【人口（人／年）】2005～2015年：-93、2015～2030年：-70、2030～2040年：-73

【高齢化率（ポイント／年）】2005～2015年：+0.39、2015～2030年：+0.57、2030～2040年：-0.18

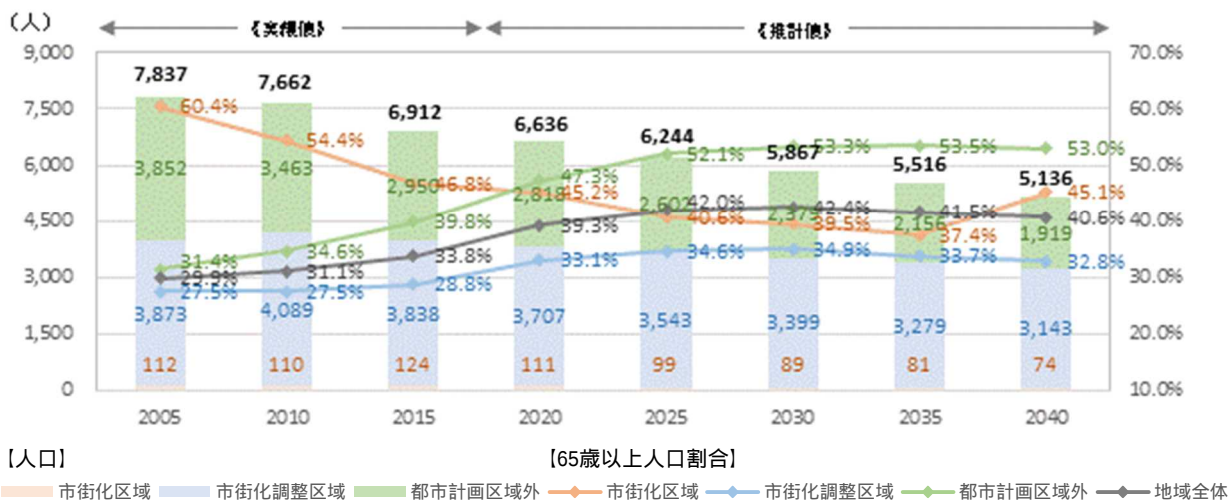
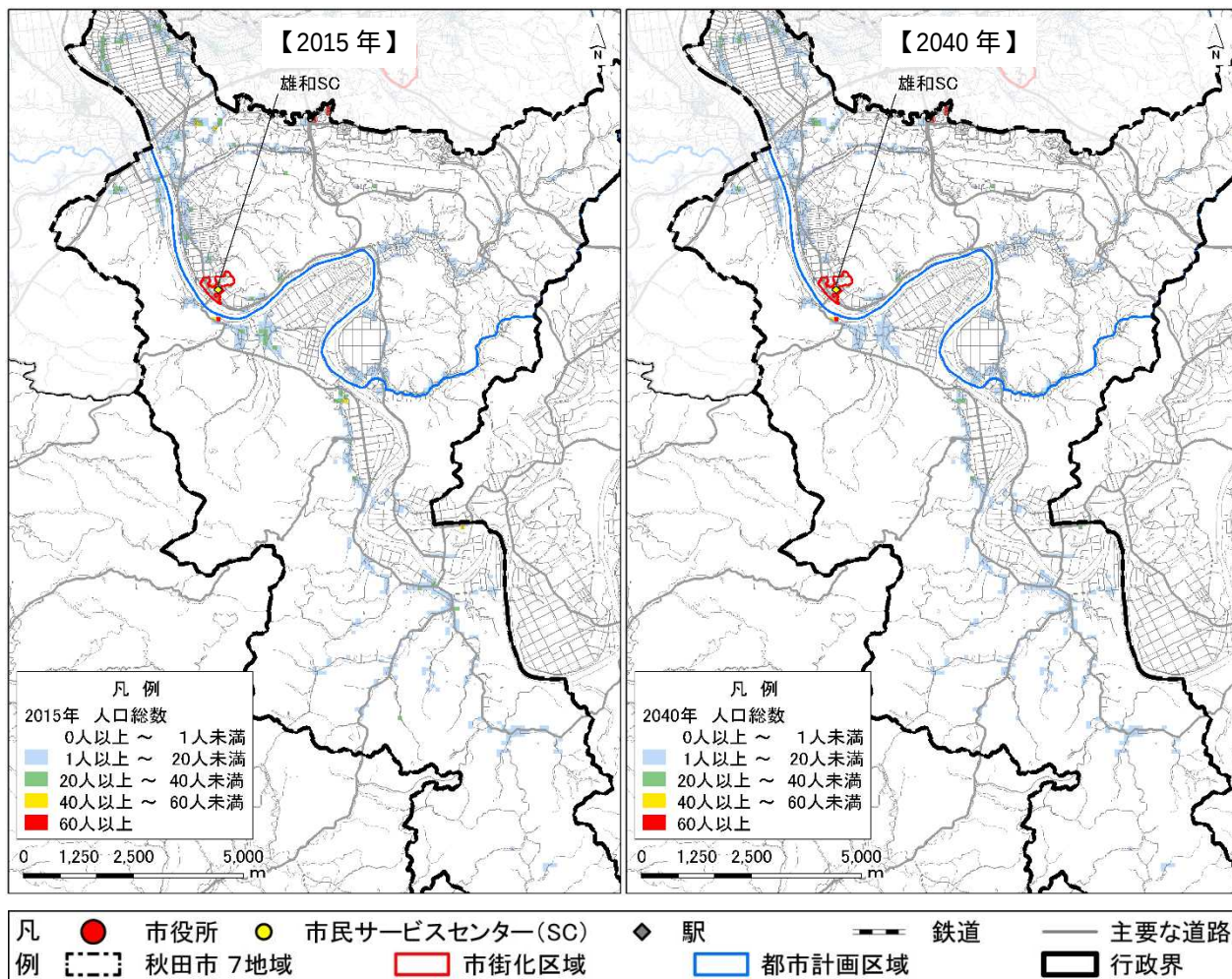


図7-3 人口動向

出典：国勢調査100mメッシュ(2000～2015年)、2015年国勢調査100mメッシュに基づき推計(2020年～)

(3) 地域の現状・課題

土地利用

主な課題

- 妙法地区や地域に分布している既存集落は、低未利用土地への対応等を行いつつ、地域コミュニティの維持・活性化を図る必要があります。

〔概況〕

- 市街化区域内の土地利用は、公益施設用地の割合が多く、市街化区域全体の構成比の約 3.5 倍にあたる 48.4% を占めています。一方、住宅用地の割合が少なく、市街化区域全体の構成比の約 1/3 にあたる 10.2% となっています。

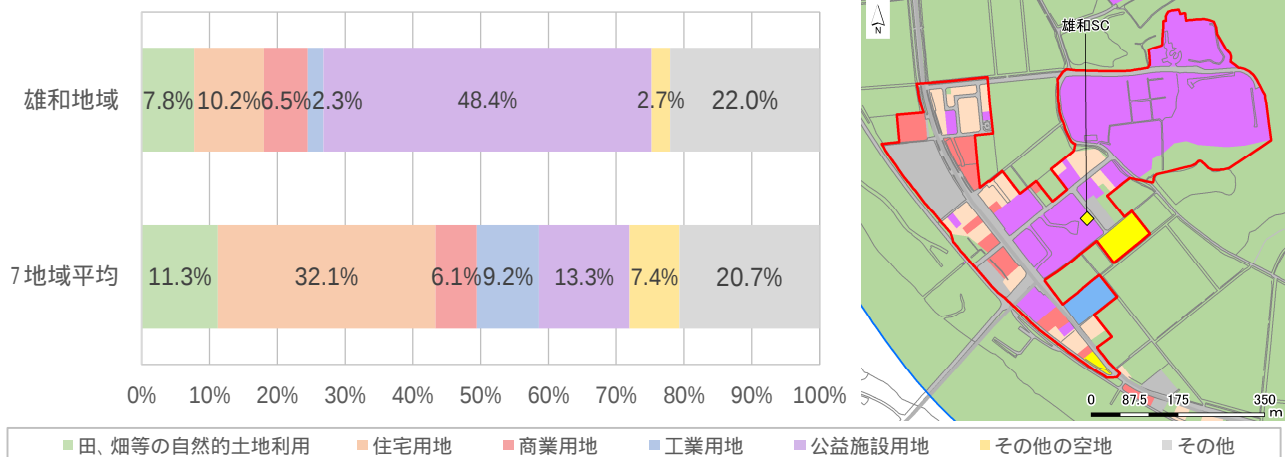


図 7 - 4 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布

出典：平成 28 年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

〔商業・業務地〕

- 妙法地区の主要地方道秋田雄和本荘線の沿道に準工業地域を指定し、日常生活に必要な商品を購入できる商業施設が立地していますが、集積は図られていません。
- 新波地区にスーパーが立地しているほか、各既存集落に小規模な小売店舗が立地しています。
- 今後とも、妙法地区や各既存集落の商業機能を維持していくことが求められています。

〔住宅地〕

- 市街化区域である妙法地区は、主要地方道秋田雄和本荘線の沿道を除き、全てに第一種住居地域を指定し、低層の住宅地が広がっていますが、居住人口は地域全体の 2 % 程度です。
- 市街化調整区域では、主要地方道秋田雄和本荘線や秋田御所野雄和線、国道 341 号等の主要な道路沿道を中心に既存集落が分布しています。
- 地域全体で高齢化率が高く、各集落で空き家が発生しています。
- 地域中心である妙法地区や地域に分布している既存集落は、低未利用土地への対応のほか、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

〔自然環境等〕

- 地域全体で丘陵部に樹林地、平野部に優良農地が分布しており、地域の大半が田畑や山林となっています。
- 地域内に雄物川が流れ、川沿いの農地は、遊水池としての機能も果たしています。また、雄物川やその支流沿いでは、白鳥やホタルの観察が可能な良好な自然環境が残されています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理していくことが求められています。

交通体系

主な課題	■ 地域の中心である妙法地区と他地域との連携・交流を支える、道路網や公共交通の機能維持・増進を図る必要があります。
------	---

〔道路〕

- 放射道路に位置づけた主要地方道秋田雄和本荘線は、地域内の全区間で整備済です。
- 交通結節点アクセス路に位置づけた主要地方道秋田御所野雄和線は、地域内の全区間で整備済です。
- 骨格道路は、機能の保全に向けた計画的な維持・改修が求められています。

〔公共交通〕

- 地域内には、マイタウン・バス（コミュニティバス）が運行されていますが、妙法地区と御所野地区を結ぶ路線を除き、運行本数が少ないほか、バス路線から外れ、公共交通の利用が不便な地域もあります。
- 隣接する南部地域の御所野地区等へのアクセス性向上に取り組むなど、地域内・地域間の円滑な移動が行える環境づくりが求められています。

住環境・市街地整備等

主な課題	■ 地域中心である妙法地区は、地域に不足する機能は他地域との連携により補完することとし、既存の商業・業務機能の維持に向け、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。 ■ 地域の広大な自然環境を保全するほか、レクリエーションなど地域の資源として活用していく必要があります。
------	---

〔都市機能等〕

- 医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービス施設は、妙法地区や既存集落に分散して立地しており、旧秋田市の5地域と比較すると、住民1人あたり施設数が少ない状況です。
- 妙法地区に、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する雄和市民サービスセンター（コープス）のほか、雄和図書館や雄和体育館など、公共公益機能が集積しています。

- 地域中心である妙法地区は、既存の公共公益施設や生活サービス施設を生かし、拠点性を維持していくことが求められています。また、地域に不足する機能は他地域との連携により補完することが求められています。
- 秋田空港に隣接して秋田県立中央公園が整備されており、日本最大規模のフィールドアスレチックが設置されています。また、地域の中央部に高尾山があり、これらの施設はレクリエーションの拠点として、交流人口の拡大に向けた機能の維持・拡充および積極的な活用が求められています。
- 多くの学生が集まる国際教養大学が立地しており、大学との連携強化や地域住民との交流促進等が求められています。

〔景観〕

- 地域の中央を雄物川が流れ、河川・田園・山林が一体となった雄大な景観が広がっており、白根館跡や高尾山から雄物川や田園風景等を一望することができます。
- 秋田国際ダリア園が立地しており、10 月上旬の最盛期には、広大な敷地に色とりどりのダリアが咲き誇ります。
- これらの自然景観は、適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「自然景観の美しさ」や「交通渋滞の状況」、「川や水路のきれいさ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合が、市全体よりも 15.0 ポイント低い状況です。現在の地域に住み続けたい理由は、「地域に愛着がある」や「緑や自然環境が豊か」、「近所づきあいが良い」が挙げられています。

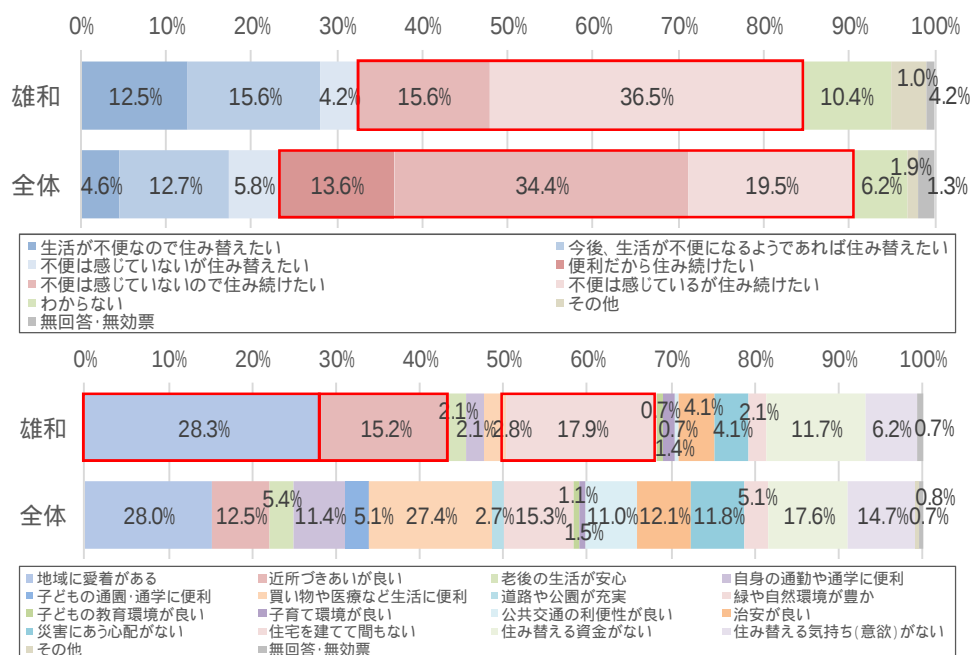


図 7-5 雄和地域居住者の住み替え意向（上図）および雄和地域に住み続けたい理由（下図）

出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

7 - 2 . 地域づくりの方向性（案）

【地域づくりの方向性(案)】

- 秋田空港や高速道路などの広域交通環境を生かしたまちづくり
- 地域全体でコミュニティを育み 日常生活を支えるまちづくり
- 地域内外の多種多様な交流による 活力のあるまちづくり

本地域は、地域の中央に雄物川が流れ、高尾山からは雄物川や田園風景等を一望することができ、広大かつ良好な自然環境を有しています。また、県立中央公園や高尾山などの観光・レクリエーション施設とともに、国際教養大学や県農業試験場などの学術・研究の拠点も立地する地域です。

本市の空の玄関口となる秋田空港のほか、日本海東北自動車道のインターチェンジが整備されている広域交通環境を生かし、これらの自然や観光・レクリエーション施設等の利用を促進します。

また本地域は、高齢化が進んでいるものの、地域コミュニティ活動が活発で団結力があるなど、地域住民が支え合う意識の高い地域です。そのため、本地域の地域中心である妙法地区は、行政、市民交流、子育て支援等の公共公益機能が集積した特性を生かしながら、地域内の各集落からのアクセスがしやすい環境づくりを行うことで、日常生活を支え、地域全体でコミュニティを育むまちづくりを進めます。

さらに、地域コミュニティの維持を図るとともに、観光・レクリエーション施設や学術・研究施設を中心に多種多様な人が集まる環境を生かし、地域内外の交流による活力のあるまちづくりを目指します。

